情報処理技術者試験
情報処理安全確保支援士試験

試験要綱

Ver.5.3

2024 年 10 月の試験から適用

IPA
独立行政法人情報処理推進機構
Information-technology Promotion Agency, Japan

■ 改訂履歴

【Ver.5.3】　2023 年（令和 5 年）12 月 25 日

ページ	変更点	
22	システムアーキテクト試験及びエンベデッドシステムスペシャリスト試験の午前Ⅱ試験の出題分野にユーザーインタフェース分野を追加	2024 年（令和 6 年）10 月から適用
23～34	IT パスポート試験を除く全試験区分の〔科目 A 試験，午前の試験〕における出題範囲を一部改訂	
35，36，41	情報セキュリティマネジメント試験，基本情報技術者試験，情報処理安全確保支援士試験の〔科目 B 試験，午後の試験〕における出題範囲を一部改訂	

【Ver.5.2】　2023 年（令和 5 年）7 月 10 日

ページ	変更点	
9,10	システム監査技術者試験の対象者像，業務と役割，期待する技術水準を改訂	2023 年（令和 5 年）11 月から適用
20	IT パスポート試験の出題範囲のシステム監査分野を改訂	
25,31	〔科目 A 試験，午前の試験〕の出題範囲のシステム監査分野を改訂	
36,40	〔午後の試験〕における応用情報技術者試験，システム監査技術者試験の出題範囲を一部改訂	

【Ver.5.1】　2022 年（令和 4 年）12 月 20 日

ページ	変更点	
4,5,8	IT ストラテジスト試験，システムアーキテクト試験，エンベデッドシステムスペシャリスト試験における対象者像，業務と役割，期待する技術水準を改訂	2023 年（令和 5 年）10 月から適用
13～15	IT ストラテジスト試験，システムアーキテクト試験の午後Ⅰ，午後Ⅱ試験の出題数を変更 エンベデッドシステムスペシャリスト試験の午後Ⅰ，午後Ⅱ試験の出題数，午後Ⅱ試験の出題形式，配点，基準点を変更 情報処理安全確保支援士試験の午後Ⅰ，午後Ⅱ試験を午後試験に統合し，午後試験の試験時間，出題数を変更	
16～17	IT ストラテジスト試験，システムアーキテクト試験の午後Ⅰ，午後Ⅱ試験の問番号を変更 情報処理安全確保支援士試験の午後Ⅰ，午後Ⅱ試験を午後試験に統合し，多段階選抜方式の記述を追加	
22	エンベデッドシステムスペシャリスト試験の午前Ⅱ試験の出題分野にシステム企画分野，経営戦略マネジメント分野，技術戦略マネジメント分野を追加	
36～39	IT ストラテジスト試験，システムアーキテクト試験，エンベデッドシステムスペシャリスト試験の出題範囲を一部改訂	

【Ver.5.0】　2022 年（令和 4 年）8 月 4 日

ページ	変更点	
2,3	情報セキュリティマネジメント試験，基本情報技術者試験における対象者像，業務と役割，期待する技術水準を改訂	2023 年（令和 5 年）4 月から適用
2～4	IT パスポート試験，応用情報技術者試験における対象者像，業務と役割，期待する技術水準の表記を一部見直し	
12	情報セキュリティマネジメント試験，基本情報技術者試験の試験時間・出題形式・出題数・解答数を変更	
14,16	情報セキュリティマネジメント試験，基本情報技術者試験の採点方式・配点・合格基準を変更	
17	情報セキュリティマネジメント試験，基本情報技術者試験の実施時期を変更	
33,34	情報セキュリティマネジメント試験，基本情報技術者試験の〔科目 B 試験，午後の試験〕における出題範囲を改訂	

【Ver.4.9】　2022 年（令和 4 年）5 月 23 日

ページ	変更点
6,7,37	プロジェクトマネージャ試験の対象者像，業務と役割，期待する技術水準，及び〔午後の試験〕における出題範囲を一部改訂

【Ver.4.8】　2021 年（令和 3 年）10 月 26 日

ページ	変更点
28	IT パスポート試験，情報セキュリティマネジメント試験を除く全試験区分の〔午前の試験〕における出題範囲の一部分野の表記を見直し

【Ver.4.7】　2021 年（令和 3 年）10 月 8 日

ページ	変更点	
2	IT パスポート試験の期待する技術水準の記述を一部見直し	2022 年（令和 4 年）4 月から適用
18～20	IT パスポート試験の出題範囲（出題の考え方）の記述を一部見直し	

【Ver.4.6】　2020 年（令和 2 年）9 月 14 日

ページ	変更点
18～20	IT パスポート試験の出題範囲（出題の考え方）の記述を一部見直し
12	情報セキュリティマネジメント試験，基本情報技術者試験の試験時間を変更
17	情報セキュリティマネジメント試験，基本情報技術者試験，IT ストラテジスト試験，システムアーキテクト試験，プロジェクトマネージャ試験，ネットワークスペシャリスト試験，データベーススペシャリスト試験，エンベデッドシステムスペシャリスト試験，IT サービスマネージャ試験，システム監査技術者試験の実施時期を変更

【Ver.4.5】　2020 年（令和 2 年）5 月 8 日

ページ	変更点
9，39	IT サービスマネージャ試験の対象者像，業務と役割，期待する技術水準，及び〔午後の試験〕における出題範囲を一部改訂
24，29	IT パスポート試験を除く全試験区分の〔午前の試験〕における出題範囲を一部改訂（サービスマネジメント分野の小分類及び知識項目例の変更）
34，35	基本情報技術者試験，応用情報技術者試験の〔午後の試験〕における出題範囲を一部改訂

【Ver.4.4】　2019 年（令和元年）11 月 5 日

ページ	変更点
4～10，35～40	IT ストラテジスト試験，システムアーキテクト試験，ネットワークスペシャリスト試験，データベーススペシャリスト試験，エンベデッドシステムスペシャリスト試験，システム監査技術者試験の対象者像，業務と役割，期待する技術水準，及び〔午後の試験〕における出題範囲を一部改訂
10～11，40	情報処理安全確保支援士試験の業務と役割，期待する技術水準を一部改訂，及び〔午後の試験〕における出題範囲を改訂
15，21	エンベデッドシステムスペシャリスト試験の午後Ⅰ試験の選択方法，配点割合を変更，午前Ⅱ試験の出題分野にビジネスインダストリ分野を追加
21	IT ストラテジスト試験，システムアーキテクト試験，プロジェクトマネージャ試験，データベーススペシャリスト試験，エンベデッドシステムスペシャリスト試験，IT サービスマネージャ試験，システム監査技術者試験の午前Ⅱ試験の出題分野においてセキュリティ分野を重点分野に変更し，プロジェクトマネージャ試験を除き技術レベルを変更
21	基本情報技術者試験，応用情報技術者試験，午前Ⅰ試験の〔試験区分別出題分野一覧表〕におけるセキュリティ分野の表示を他分野と分離して，セキュリティ分野が重点分野であることを明示

【Ver.4.3】　2019 年（令和元年）6 月 24 日

ページ	変更点
6,7,37	プロジェクトマネージャ試験の対象者像，業務と役割，期待する技術水準，及び〔午後の試験〕における出題範囲を一部改訂

【Ver.4.2】　2019 年（平成 31 年）1 月 24 日

ページ	変更点
12,15，33,34，42	基本情報技術者試験の〔午後の試験〕で出題するプログラム言語を変更（COBOL を廃止，Python を追加），及び基本情報技術者試験の〔午後の試験〕の出題構成，出題数，解答数，問番号，配点割合を変更

【Ver.4.1】　2018 年（平成 30 年）11 月 19 日

ページ	変更点
6,7，9,10	プロジェクトマネージャ試験，システム監査技術者試験の対象者像，業務と役割，期待する技術水準の表記を見直し
23,24，29,30	IT パスポート試験を除く全試験区分の〔午前の試験〕における出題範囲の一部分野の表記を見直し
34,35，37,39	基本情報技術者試験，応用情報技術者試験，プロジェクトマネージャ試験，システム監査技術者試験の〔午後の試験〕における出題範囲の表記を見直し

【Ver.4.0】　2018 年（平成 30 年）8 月 6 日

ページ	変更点	
2	IT パスポート試験の業務と役割，期待する技術水準の記述を一部見直し	2019 年（平成 31 年）4 月から適用
18～20	IT パスポート試験の出題範囲（出題の考え方）の記述を一部見直し	

【Ver.3.0】　2016 年（平成 28 年）10 月 21 日

ページ	変更点
全体	情報処理安全確保支援士試験に関する内容を追加し，情報処理技術者試験及び情報処理安全確保支援士試験に関する共通の冊子として再構成
19～33	IT パスポート試験の出題範囲（出題の考え方）の記述，及び各試験区分の〔午前の試験〕出題範囲の知識項目例を一部見直し

【Ver.2.1】　2015 年（平成 27 年）11 月 30 日

ページ	変更点	
12	IT パスポート試験の試験時間，出題構成を変更	2016 年（平成 28 年）3 月から適用
15	IT パスポート試験の出題形式を変更	

【Ver.2.0】　2015 年（平成 27 年）10 月 16 日

ページ	変更点
全体	情報セキュリティマネジメント試験に関する記載を追加
24～30	基本情報技術者試験，応用情報技術者試験，高度試験の〔午前の試験〕出題範囲を一部見直し（情報セキュリティ分野の知識項目例の追加）

【Ver.1.8】　2015 年（平成 27 年）5 月 12 日

ページ	変更点
11	応用情報技術者試験　午後試験の解答数を変更
13	応用情報技術者試験　午後試験の問番号，解答数及び配点割合を変更
33	別紙 応用情報技術者試験　午後試験の問番号，解答数及び選択問題構成を変更

【Ver.1.7】　2013 年（平成 25 年）10 月 29 日

ページ	変更点	
11	IT パスポート試験の分野別出題数（マネジメント系，テクノロジ系）を変更	2014 年（平成 26 年）5 月から適用
13	基本情報技術者試験，応用情報技術者試験の〔午後の試験〕における問番号を変更	
17	IT ストラテジスト試験，プロジェクトマネージャ試験の午前Ⅱ試験の出題分野にセキュリティ分野を追加	
33	別紙 基本情報技術者試験，応用情報技術者試験 午後試験の分野別出題数についてセキュリティ分野の問題を選択解答問題から必須解答問題に変更	

【Ver.1.6】　2013 年（平成 25 年）4 月 26 日

ページ	変更点
11，13	応用情報技術者試験，プロジェクトマネージャ試験，情報セキュリティスペシャリスト試験，IT サービスマネージャ試験，システム監査技術者試験の午後の出題数を変更
18～24	基本情報技術者試験，応用情報技術者試験，高度試験の〔午前の試験〕における出題範囲の一部分野の構成・表記を見直し
25～31	基本情報技術者試験，応用情報技術者試験，プロジェクトマネージャ試験，システムアーキテクト試験，IT サービスマネージャ試験の〔午後の試験〕における出題範囲の構成・表記を見直し
33	別紙 応用情報技術者試験　午後試験の分野別出題数を変更

【Ver.1.5】　2012 年（平成 24 年）5 月 22 日

ページ	変更点
15，16	IT パスポート試験の出題範囲を変更
18～24	基本情報技術者試験，応用情報技術者試験，高度試験の〔午前の試験〕の出題範囲を変更
25～31	基本情報技術者試験，応用情報技術者試験，高度試験の〔午後の試験〕の出題範囲を変更
33	別紙 基本情報技術者試験　午後試験の分野別出題数の分野名を変更

【Ver.1.4】　2011 年（平成 23 年）10 月 26 日

ページ	変更点
11	IT パスポート試験の出題数に関する記載を変更
12,13	IT パスポート試験の採点方式を素点方式から IRT に変更 IT パスポート試験の基準点に関する記載を変更
14	IT パスポート試験の実施方法をペーパー方式から CBT 方式に変更 IT パスポート試験の実施時期を春期・秋期から随時に変更
15	IT パスポート試験の分野別出題数に関する記載を変更
30	「試験で使用する情報技術に関する用語・プログラム言語など」の URL を変更（情報セキュリティスペシャリスト試験で出題するプログラム言語の変更）

【Ver.1.3】　2011 年（平成 23 年）7 月 11 日

ページ	変更点
30	「試験で使用する情報技術に関する用語・プログラム言語など」の URL を変更（「表計算ソフトの機能・用語」の改訂）

【Ver.1.2】　2009 年（平成 21 年）12 月 22 日

ページ	変更点
12	試験問題の難易差補正に関する記載を追加
12	各試験区分の基準点の記載を%から点に変更
13	試験区分ごとの問題別配点割合を追加

【Ver.1.1】　2009 年（平成 21 年）3 月 27 日

ページ	変更点
12	試験区分ごとの問題別配点割合の URL を追加
29	試験で使用する情報技術に関する用語・プログラム言語などを追加
29	高度試験のシラバスに関する記載を追加

【Ver.1.0】　2008 年（平成 20 年）10 月 27 日　初版

目　次

1. 実施する試験区分

次の図に示すとおり，情報処理技術者試験及び情報処理安全確保支援士試験を実施する。

情報処理技術者試験は，IT パスポート試験，情報セキュリティマネジメント試験，基本情報技術者試験，応用情報技術者試験及び高度試験（IT ストラテジスト試験，システムアーキテクト試験，プロジェクトマネージャ試験，ネットワークスペシャリスト試験，データベーススペシャリスト試験，エンベデッドシステムスペシャリスト試験，IT サービスマネージャ試験及びシステム監査技術者試験）で構成する。

2. 試験の対象者像

各試験区分の対象者像，業務と役割，期待する技術水準などを次に示す。

(1) IT パスポート試験（IP：Information Technology Passport Examination）

対象者像	職業人及びこれから職業人となる者が備えておくべき，IT に関する共通的な基礎知識をもち，IT に携わる業務に就くか，担当業務に対して IT を活用していこうとする者
業務と役割	IT に関する共通的な基礎知識を習得した者であり，職業人として，担当する業務に対して IT を活用し，次の活動を行う。 ① 利用する情報機器及びシステムを把握し，活用する。 ② 担当業務を理解し，その業務における問題の把握及び必要な解決を図る。 ③ 安全に情報の収集や活用を行う。 ④ 上位者の指導の下，業務の分析やシステム化の支援を行う。 ⑤ 担当業務において，新しい技術（AI，ビッグデータ，IoT など）や新しい手法（アジャイルなど）の活用を推進する。
期待する技術水準	職業人として，情報機器及びシステムの把握や，担当業務の遂行及びシステム化を推進するために，次の基礎知識が要求される。 ① 利用する情報機器及びシステムを把握するために，コンピュータシステム，データベース，ネットワーク，情報セキュリティ，情報デザイン，情報メディアに関する知識をもち，オフィスツールを活用できる。 ② 担当業務を理解するために，企業活動や関連業務の知識をもつ。また，担当業務の問題把握及び必要な解決を図るためにデータを利活用し，システム的な考え方や論理的な思考力（プログラミング的思考力など）をもち，かつ，問題分析及び問題解決手法に関する知識をもつ。 ③ 安全に情報を収集し，効果的に活用するために，関連法規，情報セキュリティに関する各種規程，情報倫理に従って活動できる。 ④ 業務の分析やシステム化の支援を行うために，情報システムの開発及び運用に関する知識をもつ。 ⑤ 新しい技術（AI，ビッグデータ，IoT など）や新しい手法（アジャイルなど）の概要に関する知識をもつ。

(2) 情報セキュリティマネジメント試験（SG：Information Security Management Examination）

対象者像	情報システムの利用部門にあって，情報セキュリティリーダーとして，部門の業務遂行に必要な情報セキュリティ対策や組織が定めた情報セキュリティ諸規程（情報セキュリティポリシーを含む組織内諸規程）の目的・内容を適切に理解し，情報及び情報システムを安全に活用するために，情報セキュリティが確保された状況を実現し，維持・改善する者
業務と役割	情報システムの利用部門において情報セキュリティが確保された状況を実現し，維持・改善するために，次の業務と役割を果たす。 ① 部門における情報資産の情報セキュリティを維持するために必要な業務を遂行する。 ② 部門の情報資産を特定し，情報セキュリティリスクアセスメントを行い，リスク対応策をまとめる。 ③ 部門の情報資産に関する情報セキュリティ対策及び情報セキュリティ継続の要求事項を明確にする。 ④ 部門の業務の IT 活用推進に伴う情報システムの調達に際して，利用部門として必要となる情報セキュリティ要求事項を明確にする。また，IT 活用推進の一部を利用部門が自ら実現する活動の中で，必要な情報セキュリティ要求事項を提示する。

	⑤　業務の外部委託に際して，情報セキュリティ対策の要求事項を契約で明確化し，その実施状況を確認する。 ⑥　部門の情報システムの利用時における情報セキュリティを確保する。 ⑦　部門のメンバーの情報セキュリティ意識，コンプライアンスを向上させ，内部不正などの情報セキュリティインシデントの発生を未然に防止する。 ⑧　情報セキュリティインシデントの発生又はそのおそれがあるときに，情報セキュリティ諸規程，法令・ガイドライン・規格などに基づいて，適切に対処する。 ⑨　部門又は組織全体における情報セキュリティに関する意見・問題点について担当部署に提起する。
期待する技術水準	情報システムの利用部門において情報セキュリティが確保された状況を実現し，維持・改善するために，次の知識・実践能力が要求される。 ①　部門の情報セキュリティマネジメントの一部を独力で遂行できる。 ②　情報セキュリティインシデントの発生又はそのおそれがあるときに，情報セキュリティリーダーとして適切に対処できる。 ③　IT 全般に関する基本的な用語・内容を理解できる。 ④　情報セキュリティ技術や情報セキュリティ諸規程に関する基本的な知識をもち，部門の情報セキュリティ対策の一部を独力で，又は上位者の指導の下に実現できる。 ⑤　情報セキュリティ機関，他の企業などから動向や事例を収集し，部門の環境への適用の必要性を評価できる。
レベル対応（*）	共通キャリア・スキルフレームワークのレベル 2 に相当

(3) 基本情報技術者試験（FE：Fundamental Information Technology Engineer Examination）

対象者像	IT を活用したサービス，製品，システム及びソフトウェアを作る人材に必要な基本的知識・技能をもち，実践的な活用能力を身に付けた者
業務と役割	上位者の指導の下に，次のいずれかの役割を果たす。 ①　組織及び社会の課題に対する，IT を活用した戦略の立案，システムの企画・要件定義に参加する。 ②　システムの設計・開発，汎用製品の最適組合せ（インテグレーション）によって，利用者にとって価値の高いシステムを構築する。 ③　サービスの安定的な運用の実現に貢献する。
期待する技術水準	IT を活用した戦略の立案，システムの企画・要件定義，設計・開発・運用に関し，担当する活動に応じて次の知識・技能が要求される。 ①　IT 全般に関する基本的な事項を理解し，担当する活動に活用できる。 ②　上位者の指導の下に，IT 戦略に関する予測・分析・評価に参加できる。 ③　上位者の指導の下に，システム又はサービスの提案活動に参加できる。 ④　上位者の指導の下に，システムの企画・要件定義に参加できる。 ⑤　上位者の指導の下に，情報セキュリティの確保を考慮して，システムの設計・開発・運用ができる。 ⑥　上位者の指導の下に，ソフトウェアを設計できる。 ⑦　上位者の方針を理解し，自らプログラムを作成できる。
レベル対応（*）	共通キャリア・スキルフレームワークの 5 人材像（ストラテジスト，システムアーキテクト，サービスマネージャ，プロジェクトマネージャ，テクニカルスペシャリスト）のレベル 2 に相当

(4) 応用情報技術者試験（AP：Applied Information Technology Engineer Examination）

対象者像	IT を活用したサービス，製品，システム及びソフトウェアを作る人材に必要な応用的知識・技能をもち，高度 IT 人材としての方向性を確立した者

業務と役割	独力で次のいずれかの役割を果たす。 ① 組織及び社会の課題に対する，IT を活用した戦略の立案，システムの企画・要件定義を行う。 ② システムの設計・開発，汎用製品の最適組合せ（インテグレーション）によって，利用者にとって価値の高いシステムを構築する。 ③ サービスの安定的な運用を実現する。
期待する技術水準	IT を活用した戦略の立案，システムの企画・要件定義，設計・開発・運用に関し，担当する活動に応じて次の知識・技能が要求される。 ① 経営戦略・IT 戦略の策定に際して，経営者の方針を理解し，経営を取り巻く外部環境を正確に捉え，動向や事例を収集できる。 ② 経営戦略・IT 戦略の評価に際して，定められたモニタリング指標に基づき，差異分析などを行える。 ③ システム又はサービスの提案活動に際して，提案討議に参加し，提案書の一部を作成できる。 ④ システムの企画・要件定義，アーキテクチャの設計において，システムに対する要求を整理し，適用できる技術の調査が行える。 ⑤ 運用管理チーム，オペレーションチーム，サービスデスクチームなどのメンバーとして，担当分野におけるサービス提供と安定稼働の確保が行える。 ⑥ プロジェクトメンバーとして，プロジェクトマネージャ（リーダー）の下でスコープ，予算，工程，品質などの管理ができる。 ⑦ 情報システム，ネットワーク，データベース，組込みシステムなどの設計・開発・運用・保守において，上位者の方針を理解し，自ら技術的問題を解決できる。
レベル対応（*）	共通キャリア・スキルフレームワークの 5 人材像（ストラテジスト，システムアーキテクト，サービスマネージャ，プロジェクトマネージャ，テクニカルスペシャリスト）のレベル 3 に相当

(5) IT ストラテジスト試験（ST：Information Technology Strategist Examination）

対象者像	高度 IT 人材として確立した専門分野をもち，企業の経営戦略に基づいて，ビジネスモデルや企業活動における特定のプロセスについて，情報技術（IT）を活用して事業を改革・高度化・最適化するための基本戦略を策定・提案・推進する者。
業務と役割	IT を活用した事業革新，業務改革，革新的製品・サービス開発を企画・推進又は支援する業務に従事し，次の役割を主導的に果たすとともに，下位者を指導する。 ① 業種ごとの事業特性を踏まえて，経営戦略の実現に向けた IT を活用した事業戦略を策定し，実施結果を評価する。 ② 業種ごとの事業特性を踏まえて，事業戦略の実現に向けた情報システム戦略と全体システム化計画を策定し，実施結果を評価する。 ③ 情報システム戦略の実現に向けて，個別システム化構想・計画を策定し，実施結果を評価する。 ④ 情報システム戦略の実現に向けて，事業ごとの前提や制約を考慮して，複数の個別案件からなる改革プログラムの実行を管理する。
期待する技術水準	事業企画，業務改革推進，情報化企画，製品・サービス企画などの部門において，IT を活用した基本戦略の策定・提案・推進を遂行するため，次の知識・実践能力が要求される。 ① 事業環境分析，IT 動向分析，ビジネスモデル策定への助言を行い，事業戦略を策定できる。また，事業戦略の達成度を評価し，経営者にフィードバックできる。 ② 対象となる事業・業務環境の調査・分析を行い，情報システム戦略や全体システム化計画を策定できる。また，情報システム戦略や全体システム化計画を評価

	できる。 ③　対象となる事業・業務環境の調査・分析を行い，全体システム化計画に基づいて個別システム化構想・計画を策定し，適切な個別システムを調達できる。また，システム化構想・計画の実施結果を評価できる。 ④　情報システム戦略や改革プログラム実施の前提条件を理解し，情報システム戦略実現のモニタリングとコントロールができる。また，情報セキュリティリスクや情報システム戦略実現上のリスクについて，原因分析，対策策定，対策の実施などができる。
レベル対応（*）	共通キャリア・スキルフレームワークの 人材像：ストラテジストのレベル 4 の前提要件

(6) システムアーキテクト試験（SA：Systems Architect Examination）

対象者像	高度 IT 人材として確立した専門分野をもち，IT ストラテジストによる提案を受けて，情報システムを利用したシステムの開発に必要となる要件を定義し，それを実現するためのアーキテクチャを設計し，開発を主導する者
業務と役割	情報システム戦略を具体化するための情報システムの構造の設計や，開発に必要となる要件の定義，システム方式の設計及び情報システムを開発する業務に従事し，次の役割を主導的に果たすとともに，下位者を指導する。 ①　情報システム戦略を具体化するために，全体最適の観点から，対象とする情報システムの構造を設計する。 ②　全体システム化計画及び個別システム化構想・計画を具体化するために，対象とする情報システムの開発に必要となる要件を分析，整理し，取りまとめる。 ③　対象とする情報システムの要件を実現し，情報セキュリティを確保できる，最適なシステム方式を設計する。 ④　要件及び設計されたシステム方式に基づいて，要求された品質及び情報セキュリティを確保できるソフトウェアの設計・開発，テスト，運用及び保守についての検討を行い，対象とする情報システムを開発する。 なお，ネットワーク，データベース，セキュリティなどの固有技術については，必要に応じて専門家の支援を受ける。 ⑤　対象とする情報システム及びその効果を評価する。
期待する技術水準	システムアーキテクトの業務と役割を円滑に遂行するため，次の知識・実践能力が要求される。 ①　情報システム戦略を正しく理解し，業務モデル・情報システム全体体系を検討できる。 ②　各種業務プロセスについての専門知識とシステムに関する知識を有し，双方を活用して，適切なシステムを提案できる。 ③　企業のビジネス活動を抽象化（モデル化）して，情報技術を適用できる形に再構成できる。 ④　業種ごとのベストプラクティスや主要企業の業務プロセスの状況，同一業種の多くのユーザー企業における業務プロセスの状況，業種ごとの専門知識，業界固有の慣行などに関する知見をもつ。 ⑤　情報システムのシステム方式，開発手法，ソフトウェアパッケージなどの汎用的なシステムに関する知見をもち，適切な選択と適用ができる。 ⑥　OS，データベース，ネットワーク，セキュリティなどにかかわる基本的要素技術に関する知見をもち，その技術リスクと影響を勘案し，適切な情報システムを構築し，保守できる。 ⑦　情報システムのシステム運用，業務運用，投資効果及び業務効果について，適切な評価基準を設定し，分析・評価できる。 ⑧　多数の企業への展開を念頭において，ソフトウェアや，システムサービスの汎

	用化を検討できる。
レベル 対応（*）	共通キャリア・スキルフレームワークの 人材像：システムアーキテクト，テクニカルスペシャリストのレベル 4 の前提要件

(7) プロジェクトマネージャ試験（PM：Project Manager Examination）

対象者像	高度 IT 人材として確立した専門分野をもち，組織の戦略の実現に寄与することを目的とするシステム開発プロジェクトにおいて，プロジェクトの目的の実現に向けて責任をもってプロジェクトマネジメント業務を単独で又はチームの一員として担う者
業務と役割	システム開発プロジェクトの目的を実現するために，当該プロジェクトチーム内でのプロジェクトマネジメント業務の分担に従って，次の役割を主導的に果たすとともに，下位者を指導する。 ① 必要に応じて個別システム化構想・計画の策定を支援し，策定された個別システム化構想・計画に基づいて，プロジェクトの目的を実現するためにプロジェクト計画を作成し，当該プロジェクトの目標とライフサイクルを設定する。 ② 必要となるメンバーや資源を確保してプロジェクトチームを編成し，チームのメンバーとプロジェクトの目的を共有する。必要に応じてメンバーを支援して，メンバーの成長とチームの自律的なマネジメントに向けた継続的な改善を推進する。 ③ 問題に対して適切な対策・対応を実施するとともに，将来見込まれるリスクや不確かさに対して，メンバーの多様な考えを活用して早期に対応し，変化に適応することによって，プロジェクトの目的を実現する。 ④ プロジェクトのステークホルダと適切にコミュニケーションを取って，ステークホルダのニーズを満たすとともに，プロジェクトの目的の実現のためにステークホルダとの共創関係を構築し維持する。 ⑤ プロジェクトフェーズの区切り及び全体の終了時，又は必要に応じて適宜，プロジェクトの計画と実績を分析・評価し，プロジェクトのその後のマネジメントの改善に反映するとともに，ほかのプロジェクトの参考に資する。
期待する技術水準	プロジェクトの目的の実現に向けて，プロジェクトマネジメントの業務と役割を円滑に遂行するため，次の知識・実践能力が要求される。 ① 組織の戦略及びシステム全般に関する基本的な事項を理解している。 ② プロジェクトを取り巻く環境の変化，及びステークホルダの期待を正しく認識して，プロジェクトの目的を実現するプロジェクト計画を作成できる。 ③ プロジェクトの目標を設定して，その達成に最適なライフサイクルと開発アプローチの選択，及びマネジメントプロセスの修整ができる。 ④ プロジェクトマネジメントの業務の分担に応じて，プロジェクトチームの全体意識を統一してパフォーマンスの向上を図り，またプロジェクトチームの自律的な成長を促進できる。 ⑤ プロジェクトに影響を与えるリスクや不確かさに適切に対応するための多様な考えを理解して，変化に柔軟に適応できる。 ⑥ プロジェクトの計画・実績を適切に分析・評価できる。また，その結果をプロジェクトのその後のマネジメントに活用できるとともに，ほかのプロジェクトの参考に資することができる。
レベル 対応（*）	共通キャリア・スキルフレームワークの 人材像：プロジェクトマネージャのレベル 4 の前提要件

(8) ネットワークスペシャリスト試験（NW：Network Specialist Examination）

対象者像	高度 IT 人材として確立した専門分野をもち，ネットワークに関係する固有技術を活用し，最適な情報システム基盤の企画・要件定義・開発・運用・保守において中心的な役割を果たすとともに，固有技術の専門家として，情報セキュリティを含む情報シ

	ステムの企画・要件定義・開発・運用・保守への技術支援を行う者
業務と役割	ネットワークシステムを企画・要件定義・設計・構築・運用・保守する業務に従事し，次の役割を主導的に果たすとともに，下位者を指導する。 ① ネットワーク管理者として，ネットワークサービス活用を含む情報システム基盤のネットワーク資源を管理する。 ② ネットワークシステムに対する要求を分析し，効率性・信頼性・安全性を考慮した企画・要件定義・設計・構築・運用・保守を行う。 ③ 情報セキュリティを含む情報システムの企画・要件定義・開発・運用・保守において，ネットワーク関連の技術支援を行う。
期待する技術水準	目的に適合したネットワークシステムを構築・維持するため，次の知識・実践能力が要求される。 ① ネットワーク技術・ネットワークサービスの動向を広く見通し，目的に応じた適用可能な技術・サービスを選択できる。 ② 企業・組織，又は業務システムの要求（情報セキュリティを含む）を的確に理解し，ネットワークシステムの要求仕様を作成できる。 ③ 要求仕様に関連するモデリングなどの設計技法，プロトコル技術，信頼性設計，セキュリティ技術，ネットワークサービス，コストなどを評価して，最適な論理設計・物理設計ができる。 ④ ネットワーク関連企業（通信事業者，ベンダー，工事業者など）を活用して，ネットワークシステムの設計・構築・運用・保守ができる。
レベル対応（*）	共通キャリア・スキルフレームワークの 人材像：テクニカルスペシャリストのレベル 4 の前提要件

(9) データベーススペシャリスト試験（DB：Database Specialist Examination）

対象者像	高度 IT 人材として確立した専門分野をもち，データベースに関係する固有技術を活用し，最適な情報システム基盤の企画・要件定義・開発・運用・保守において中心的な役割を果たすとともに，固有技術の専門家として，情報システムの企画・要件定義・開発・運用・保守への技術支援を行う者
業務と役割	データ資源及びデータベースを企画・要件定義・開発・運用・保守する業務に従事し，次の役割を主導的に果たすとともに，下位者を指導する。 ① データ管理者として，情報システム全体のデータ資源を管理する。 ② データベースシステムに対する要求を分析し，効率性・信頼性・安全性を考慮した企画・要件定義・開発・運用・保守を行う。 ③ 個別システム開発の企画・要件定義・開発・運用・保守において，データベース関連の技術支援を行う。
期待する技術水準	高品質なデータベースを企画，要件定義，開発，運用，保守するため，次の知識・実践能力が要求される。 ① データベース技術の動向を広く見通し，目的に応じて適用可能な技術を選択できる。 ② データ資源管理の目的と技法を理解し，データ部品の標準化，リポジトリシステムの企画・要件定義・開発・運用・保守ができる。 ③ データモデリング技法を理解し，利用者の要求に基づいてデータ分析を行い，正確な概念データモデルを作成できる。 ④ データベース管理システムの特性を理解し，情報セキュリティも考慮し，高品質なデータベースの企画・要件定義・開発・運用・保守ができる。
レベル対応（*）	共通キャリア・スキルフレームワークの 人材像：テクニカルスペシャリストのレベル 4 の前提要件

(10) エンベデッドシステムスペシャリスト試験（ES：Embedded Systems Specialist Examination）

対象者像	高度 IT 人材として確立した専門分野をもち，IoT を含む組込みシステムの開発に関係する広い知識や技能を活用して，市場動向・関連業界の動向を踏まえて最適な組込みシステムの事業戦略や製品戦略を策定し，ハードウェアとソフトウェアの要求仕様の策定，及び要求仕様に基づいた組込みシステムの設計・構築・製造を主導的に行う者
業務と役割	IoT を含む組込みシステムに関する事業戦略や製品戦略の策定，ハードウェアとソフトウェアの要求仕様の策定，及び開発・実装・テストを計画・実施する業務に従事し，次の役割を主導的に果たすとともに，下位者を指導する。 ① 市場動向・関連業界の動向を踏まえて組込みシステムの事業戦略や製品戦略を策定するとともに，開発・製造・保守などにわたるライフサイクルを統括する。 ② 対象とするシステムの機能要件，技術的要件，環境条件，品質要件を調査・分析し，機能仕様を決定する。 ③ 機能仕様を実現するハードウェアとソフトウェアへの機能分担を検討して，最適なシステムアーキテクチャを設計し，各要求仕様を策定する。 ④ 汎用的なモジュールの導入の妥当性やプラットフォームの利用，及び開発された資産の再利用可能性について方針を策定する。 ⑤ IoT を含む組込みシステムを対象として，機能仕様とリアルタイム性を最適に実現するハードウェアとソフトウェアのトレードオフに基づく機能分担を図り，設計書・仕様書の作成を行う。 ⑥ 組込みシステム開発において適切なソフトウェア開発モデルを選択し，各工程の作業を主導的に実施する。 ⑦ 特定の技術・製品分野についての高度で専門的な知識・開発経験を基に，開発する当該分野の技術動向を分析し，必要に応じて外部を含めた専門家から技術上の知識を適切に取得して，開発の各工程に反映させる。 ⑧ 開発を遂行する上での開発環境を整備し，改善する。
期待する技術水準	エンベデッドシステムスペシャリストの業務と役割を円滑に遂行するため，次の知識・実践能力が要求される。 ① 新たな組込みシステムの開発に関し，関連技術動向及び適用可能性，社会的制約・要請，知的財産などの分析結果に基づき，必要に応じて他関連企業の有する技術能力の活用可能性を吟味し，競争力のあるシステムを企画するとともに，付加価値，拡張性，柔軟性などを踏まえ，その展開戦略や開発戦略を策定・推進できる。 ② 組込みシステムが用いられる環境条件，安全性，情報セキュリティなどの品質要件を吟味し，実現すべき機能仕様に反映できる。 ③ リアルタイム OS に関する深い知識と汎用的なモジュールに対する知識を有し，システムアーキテクチャの合理的な設計，開発された資産の再利用可能性の検討，適切な活用ができる。 ④ 機能仕様に基づき，プラットフォームの利用や既存製品の再利用可能性の吟味も踏まえてハードウェアとソフトウェアの適切な組合せを設計し，各要求仕様を策定できる。また，その開発を実現し，組込みシステム開発における各工程を主導的に遂行できる。 ⑤ 特定の技術・製品分野についての高度で専門的な知識，開発経験を基に，開発する当該分野の技術動向を分析し，必要に応じて外部を含めた専門家から技術上の知識を適切に取得して，組込みシステム開発の各工程に反映できる。 ⑥ 組込みシステム開発を行う上で効果的な開発環境の構築と改善ができる。
レベル対応（*）	共通キャリア・スキルフレームワークの 人材像：テクニカルスペシャリストのレベル 4 の前提要件

(11) IT サービスマネージャ試験（SM：Information Technology Service Manager Examination）

対象者像	高度 IT 人材として確立した専門分野をもち，サービスの要求事項を満たし，サービスの計画立案，設計，移行，提供及び改善のための組織の活動及び資源を，指揮し，管理する者
業務と役割	IT サービスマネジメントの業務に従事し，次の役割を主導的に果たすとともに，下位者を指導する。 ① サービスマネジメントシステムの計画，運用，評価及び改善を行う。 ② サービス運用チームのリーダーとして，安全性と信頼性の高いサービスを顧客に提供する。 ③ 新規サービス又はサービス変更について，変更を管理し，サービスの設計，構築及び移行を行う。 ④ 顧客関係を管理し，顧客満足を維持する。提供するサービスについて顧客と合意する。サービスの改善を行う。 ⑤ 顧客の設備要件に合致したハードウェアの導入，ソフトウェアの導入，カスタマイズ，保守及び修理を実施する。また，データセンター施設のファシリティマネジメントを行う。
期待する技術水準	IT サービスマネージャの業務と役割を円滑に遂行するため，次の知識・実践能力が要求される。 ① サービスマネジメントシステムの要求事項及びフレームワークを理解し，サービスマネジメントシステムの計画，運用，評価及び改善を行うことができる。 ② 要員・供給者・資源・予算を管理し，サービスの運用を行うことができる。解決及び実現並びにサービス保証に関する管理技術をもち，サービスの運用を行うことができる。 ③ サービスコンポーネント，構成品目などを管理し，変更管理方針を確立するとともに，新規サービス又はサービス変更の計画に基づいて，サービスの設計，構築及び移行を行うことができる。 ④ 顧客との関係及び合意に関わる，事業関係管理，サービスレベル管理を行うことができる。 ⑤ 導入済み又は導入予定のハードウェア，ソフトウェアについて，安定稼働を目的に，導入，セットアップ，機能の維持・拡張，障害修復ができる。また，データセンター施設の安全管理関連知識をもち，ファシリティマネジメントを遂行できる。
レベル対応（*）	共通キャリア・スキルフレームワークの 人材像：サービスマネージャのレベル 4 の前提要件

(12) システム監査技術者試験（AU：Systems Auditor Examination）

対象者像	高度 IT 人材として確立した専門分野をもち，高い倫理観の下，監査対象から独立かつ客観的な立場で，情報システムや組込みシステムを総合的に検証・評価して，監査報告の利用者に情報システムのガバナンス，マネジメント，コントロールの適切性などに対する保証を与える，又は改善のための助言を行う者
業務と役割	独立かつ客観的な立場で，情報システムや組込みシステムを監査する業務に従事し，次の役割を主導的に果たすとともに，下位者を指導する。 ① 情報システムや組込みシステム及びそれらの企画・開発・運用・保守・廃棄のプロセスに関する幅広く深い知識に基づいて，情報システムや組込みシステムに係るリスクを分析し，必要なコントロールを検証・評価する。 ② 情報システムや組込みシステムに係るコントロールを検証・評価することによって，保証を与え，又は改善のための助言を行い，組織体の目標達成に寄与する，又は利害関係者に対する説明責任を果たす。 ③ ②を実践するための監査計画を策定し，監査を実施する。また，監査結果をト

	ップマネジメント及び関係者に報告し，フォローアップする。
期待する技術水準	情報システムや組込みシステムが適切かつ健全に活用され，情報システムに係るリスクに適切に対処できるように改善を促進するため，次の知識・実践能力が要求される。 ① 情報システムや組込みシステム及びそれらの企画・開発・運用・保守・廃棄のプロセスに関する幅広く深い知識をもち，その目的や機能の実現に関するリスクとコントロールに関する専門知識をもつ。 ② 情報システムや組込みシステムが適用される業務プロセスや，企業戦略上のリスクを評価し，それに対するコントロールの問題点を洗い出し，問題点を分析・評価するための判断基準を自ら形成できる。 ③ 組織体の目標達成に寄与する，又は利害関係者に対する説明責任を果たすために，システム監査に対するニーズを把握して，ビジネス要件や経営方針，情報セキュリティ・個人情報保護・内部統制などに関する関連法令・ガイドライン・契約・内部規程などに合致したリスクベースの監査計画を立案し，それに基づいて監査業務を適切に実施・管理できる。 ④ 有効かつ効率的な監査を実施するために，監査要点を適切に設定し，監査技法を適時かつ的確に適用できる。 ⑤ 監査結果を監査証拠に基づいて論理的に報告書にまとめ，有益で説得力のある改善提案を行い，フォローアップを行うことができる。
レベル対応（*）	共通キャリア・スキルフレームワークの 人材像：サービスマネージャのレベル 4 の前提要件

（13）情報処理安全確保支援士試験（SC：Registered Information Security Specialist Examination）

対象者像	サイバーセキュリティに関する専門的な知識・技能を活用して企業や組織における安全な情報システムの企画・設計・開発・運用を支援し，また，サイバーセキュリティ対策の調査・分析・評価を行い，その結果に基づき必要な指導・助言を行う者
業務と役割	情報セキュリティマネジメントに関する業務，情報システムの企画・設計・開発・運用におけるセキュリティ確保に関する業務，情報及び情報システムの利用におけるセキュリティ対策の適用に関する業務，情報セキュリティインシデント管理に関する業務に従事し，次の役割を主導的に果たすとともに，下位者を指導する。 ① 情報セキュリティ方針及び情報セキュリティ諸規程（事業継続計画に関する規程を含む組織内諸規程）の策定，情報セキュリティリスクアセスメント及びリスク対応などを推進又は支援する。 ② システム調達（製品・サービスのセキュアな導入を含む），システム開発（セキュリティ機能の実装を含む）を，セキュリティの観点から推進又は支援する。 ③ 暗号利用，マルウェア対策，脆弱性への対応など，情報及び情報システムの利用におけるセキュリティ対策の適用を推進又は支援する。 ④ 情報セキュリティインシデントの管理体制の構築，情報セキュリティインシデントへの対応などを推進又は支援する。
期待する技術水準	情報処理安全確保支援士の業務と役割を円滑に遂行するため，次の知識・実践能力が要求される。 ① 情報システム及び情報システム基盤の脅威分析に関する知識をもち，セキュリティ要件を抽出できる。 ② 情報セキュリティの動向・事例，及びセキュリティ対策に関する知識をもち，セキュリティ対策を対象システムに適用するとともに，その効果を評価できる。 ③ 情報セキュリティマネジメントシステム，情報セキュリティリスクアセスメント及びリスク対応に関する知識をもち，情報セキュリティマネジメントについて指導・助言できる。

	④　ネットワーク，データベースに関する知識をもち，暗号，認証，フィルタリング，ロギングなどの要素技術を適用できる。 ⑤　システム開発，品質管理などに関する知識をもち，それらの業務について，セキュリティの観点から指導・助言できる。 ⑥　情報セキュリティ方針及び情報セキュリティ諸規程の策定，内部不正の防止に関する知識をもち，情報セキュリティに関する従業員の教育・訓練などについて指導・助言できる。 ⑦　情報セキュリティ関連の法的要求事項，情報セキュリティインシデント発生時の証拠の収集及び分析，情報セキュリティ監査に関する知識をもち，それらに関連する業務を他の専門家と協力しながら遂行できる。
レベル対応（*）	共通キャリア・スキルフレームワークの 人材像：テクニカルスペシャリストのレベル 4 の前提要件

（*）レベル対応における，各レベルの定義

レベルは，人材に必要とされる能力及び果たすべき役割（貢献）の程度によって定義する。

レベル	定義
レベル 4	高度な知識・スキルを有し，プロフェッショナルとして業務を遂行でき，経験や実績に基づいて作業指示ができる。また，プロフェッショナルとして求められる経験を形式知化し，後進育成に応用できる。
レベル 3	応用的知識・スキルを有し，要求された作業について全て独力で遂行できる。
レベル 2	基本的知識・スキルを有し，一定程度の難易度又は要求された作業について，その一部を独力で遂行できる。
レベル 1	情報技術に携わる者に必要な最低限の基礎的知識を有し，要求された作業について，指導を受けて遂行できる。

3. 試験時間・出題形式・出題数・解答数

各試験区分の試験時間・出題形式・出題数・解答数は次のとおりとする。

〔IT パスポート試験，情報セキュリティマネジメント試験，基本情報技術者試験〕

試験区分	科目名	試験時間	出題数 解答数	出題形式	各科目で問う内容
IT パスポート試験	－	120 分	100 問 1) 100 問	多肢選択式 (四肢択一)	知識を問う
情報セキュリティマネジメント試験	科目 A・B	120 分 2)	60 問 3) 60 問	科目 A　多肢選択式 (四肢択一)	知識を問う
				科目 B　多肢選択式	技能を問う
基本情報技術者試験	科目 A 4)	90 分 5)	60 問 6) 60 問	多肢選択式 (四肢択一)	知識を問う
	科目 B	100 分	20 問 7) 20 問	多肢選択式	技能を問う

注 1)　出題数 100 問のうち，総合評価は 92 問で行い，残りの 8 問は今後出題する問題を評価するために使われる。また，分野別評価の問題数は，ストラテジ系 32 問，マネジメント系 18 問，テクノロジ系 42 問とする。

注 2)　情報セキュリティマネジメント試験では，一つの試験時間内に科目 A と科目 B をまとめて実施する。

注 3)　出題数 60 問のうち，評価は 54 問で行い，残りの 6 問は今後出題する問題を評価するために使われる。科目 A の出題数は 48 問，科目 B の出題数は 12 問とする。

注 4)　基本情報技術者試験では，科目 A が一部免除制度の対象となる。

注 5)　基本情報技術者試験では，同日に科目 A と科目 B を実施する。コンピュータを用いる方式によって実施する場合は，科目 A 終了後，科目 B を開始するまでの間に，最長で 10 分の休憩を取得することができる。

注 6)　出題数 60 問のうち，評価は 56 問で行い，残りの 4 問は今後出題する問題を評価するために使われる。

注 7)　出題数 20 問のうち，評価は 19 問で行い，残りの 1 問は今後出題する問題を評価するために使われる。分野別の出題数は，アルゴリズムとプログラミング分野 16 問，情報セキュリティ分野 4 問とする。

〔応用情報技術者試験，高度試験，情報処理安全確保支援士試験〕

試験区分	午前 9:30～12:00 （150 分）		午後 13:00～15:30 （150 分）	
	出題形式	出題数 解答数	出題形式	出題数 解答数
応用情報技術者試験	多肢選択式 (四肢択一)	80 問 80 問	記述式	11 問 [1)] 5 問

注 [1)] 応用情報技術者試験の午後試験の分野別出題数内訳は，「別紙」（42 ページ）を参照のこと。

試験区分		午前Ⅰ 9:30～10:20 （50 分）		午前Ⅱ 10:50～11:30 （40 分）		午後Ⅰ 12:30～14:00 （90 分）		午後Ⅱ 14:30～16:30 （120 分）	
		出題形式	出題数 解答数	出題形式	出題数 解答数	出題 形式	出題数 解答数	出題 形式	出題数 解答数
高度試験	IT ストラテジスト試験	多肢選択式 (四肢択一) 共通問題	30 問 30 問	多肢選択式 (四肢択一)	25 問 25 問	記述式	3 問 2 問	論述式	2 問 1 問
	システム アーキテクト試験			多肢選択式 (四肢択一)	25 問 25 問	記述式	3 問 2 問	論述式	2 問 1 問
	プロジェクト マネージャ試験			多肢選択式 (四肢択一)	25 問 25 問	記述式	3 問 2 問	論述式	2 問 1 問
	ネットワーク スペシャリスト試験			多肢選択式 (四肢択一)	25 問 25 問	記述式	3 問 2 問	記述式	2 問 1 問
	データベース スペシャリスト試験			多肢選択式 (四肢択一)	25 問 25 問	記述式	3 問 2 問	記述式	2 問 1 問
	エンベデッドシステム スペシャリスト試験			多肢選択式 (四肢択一)	25 問 25 問	記述式	2 問 1 問	論述式	3 問 1 問
	IT サービスマネージャ 試験			多肢選択式 (四肢択一)	25 問 25 問	記述式	3 問 2 問	論述式	2 問 1 問
	システム監査技術者試験			多肢選択式 (四肢択一)	25 問 25 問	記述式	3 問 2 問	論述式	2 問 1 問

試験区分	午前Ⅰ 9:30～10:20 （50 分）		午前Ⅱ 10:50～11:30 （40 分）		午後 12:30～15:00 （150 分）	
	出題形式	出題数 解答数	出題形式	出題数 解答数	出題 形式	出題数 解答数
情報処理安全確保支援士試験	多肢選択式 (四肢択一) 共通問題	30 問 30 問	多肢選択式 (四肢択一)	25 問 25 問	記述式	4 問 2 問

4. 採点方式・配点・合格基準

(1) 採点方式については，IT パスポート試験，情報セキュリティマネジメント試験及び基本情報技術者試験においては IRT（Item Response Theory：項目応答理論）に基づいて解答結果から評価点を算出する。それ以外の試験区分・時間区分においては素点方式を採用する。

(2) 試験区分ごとの合格基準は，次のとおりとする。

① IT パスポート試験では，総合評価点及び各分野別評価点（ストラテジ系，マネジメント系，テクノロジ系の三つの分野別評価点）がそれぞれ基準点以上の場合に合格とする。

② 情報セキュリティマネジメント試験では，総合評価点が基準点以上の場合に合格とする。

③ 基本情報技術者試験では，各科目（次表の科目 A 試験，科目 B 試験）の評価点が全て基準点以上の場合に合格とする。

④ 応用情報技術者試験，高度試験及び情報処理安全確保支援士試験（以下，支援士試験という）では，各時間区分（次表の午前，午後，午前Ⅰ，午前Ⅱ，午後Ⅰ，午後Ⅱの試験）の得点が全て基準点以上の場合に合格とする。

(3) 試験区分ごとの配点（満点）及び基準点は次のとおりとする。

(4) 試験結果に問題の難易差が認められた場合には，応用情報技術者試験，高度試験及び支援士試験では基準点の変更を行うことがある。

〔各試験区分の配点及び基準点〕

試験区分	科目	配点	基準点
ITパスポート試験	－	1,000点満点	総合評価点：600点／1,000点満点 分野別評価点：ストラテジ系　300 点／1,000 点満点 マネジメント系　300 点／1,000 点満点 テクノロジ系　300 点／1,000 点満点
情報セキュリティマネジメント試験	科目 A・B	1,000点満点	総合評価点：600点／1,000点満点
基本情報技術者試験	科目A	1,000点満点	科目評価点：600点／1,000点満点
	科目B	1,000点満点	科目評価点：600点／1,000点満点

試験区分		時間区分	配点	基準点
応用情報技術者試験		午前	100点満点	60点
		午後	100点満点	60点
高度試験	ITストラテジスト試験 システムアーキテクト試験 プロジェクトマネージャ試験 エンベデッドシステムスペシャリスト試験 ITサービスマネージャ試験 システム監査技術者試験	午前Ⅰ	100点満点	60点
		午前Ⅱ	100点満点	60点
		午後Ⅰ	100点満点	60点
		午後Ⅱ	－	ランク A[1)]
	ネットワークスペシャリスト試験 データベーススペシャリスト試験	午前Ⅰ	100点満点	60点
		午前Ⅱ	100点満点	60点
		午後Ⅰ	100点満点	60点
		午後Ⅱ	100点満点	60点
情報処理安全確保支援士試験		午前Ⅰ	100点満点	60点
		午前Ⅱ	100点満点	60点

	午後	100点満点	60点

注 1)　午後Ⅱ（論述式）試験の評価方法について

・設問で要求した項目の充足度，論述の具体性，内容の妥当性，論理の一貫性，見識に基づく主張，洞察力・行動力，独創性・先見性，表現力・文章作成能力などを評価の視点として，論述の内容を評価する。また，問題冊子で示す“解答に当たっての指示”に従わない場合は，論述の内容にかかわらず，その程度によって評価を下げることがある。

・評価ランクと合否の関係は次のとおりとする。

〔午後Ⅱ（論述式）試験の評価ランクと合否の関係〕

評価ランク	内　　容	合否
A	合格水準にある	合格
B	合格水準まであと一歩である	不合格
C	内容が不十分である 問題文の趣旨から逸脱している	
D	内容が著しく不十分である 問題文の趣旨から著しく逸脱している	

(5) 試験区分ごとの問題別配点割合は，次のとおりとする。

〔各試験区分の問題別配点割合〕

試験区分	問番号	解答数	配点割合
IT パスポート試験	1～100	100	IRT による 1)

試験区分	科目 A･B		
	問番号	解答数	配点割合
情報セキュリティマネジメント試験	1～60	60	IRT による 1)

試験区分	科目 A			科目 B		
	問番号	解答数	配点割合	問番号	解答数	配点割合
基本情報技術者試験	1～60	60	IRT による 1)	1～20	20	IRT による 1)

試験区分	午前			午後		
	問番号	解答数	配点割合	問番号	解答数	配点割合
応用情報技術者試験	1～80	80	各 1.25 点	1 2～11	1 4	20 点 各 20 点

試験区分		午前Ⅰ			午前Ⅱ			午後Ⅰ			午後Ⅱ		
		問番号	解答数	配点割合	問番号	解答数	配点割合	問番号	解答数	配点割合	問番号	解答数	配点割合
高度試験	IT ストラテジスト試験 システムアーキテクト試験 プロジェクトマネージャ試験 IT サービスマネージャ試験 システム監査技術者試験	1～30	30	各 3.4 点 2)	1～25	25	各 4 点	1～3	2	各 50 点	1, 2	1	評価ランクによる 3)
	エンベデッドシステムスペシャリスト試験							1, 2	1	100 点	1～3	1	
	ネットワークスペシャリスト試験 データベーススペシャリスト試験							1～3	2	各 50 点	1, 2	1	100 点

試験区分	午前Ⅰ			午前Ⅱ			午後		
	問番号	解答数	配点割合	問番号	解答数	配点割合	問番号	解答数	配点割合
情報処理安全確保支援士試験	1～30	30	各 3.4 点 2)	1～25	25	各 4 点	1～4	2	各 50 点

1) IRT に基づいて解答結果から評価点を算出することから，配点割合はない。
2) 得点の上限は 100 点とする。
3) 評価ランクで評価することから，配点割合はない。

(6) 応用情報技術者試験，高度試験及び支援士試験では，次のとおり「多段階選抜方式」を採用する。

＜応用情報技術者試験＞

・午前試験の得点が基準点に達しない場合には，午後試験の採点を行わずに不合格とする。

＜高度試験の各試験区分＞

・午前Ⅰ試験の得点が基準点に達しない場合には，午前Ⅱ・午後Ⅰ・午後Ⅱ試験の採点を行わずに不合格とする。

・午前Ⅱ試験の得点が基準点に達しない場合には，午後Ⅰ・午後Ⅱ試験の採点を行わずに不合格とする。

・午後Ⅰ試験の得点が基準点に達しない場合には，午後Ⅱ試験の採点を行わずに不合格とする。

＜支援士試験＞

・午前Ⅰ試験の得点が基準点に達しない場合には，午前Ⅱ・午後試験の採点を行わずに不合格とする。

・午前Ⅱ試験の得点が基準点に達しない場合には，午後試験の採点を行わずに不合格とする。

5. 試験の実施方法・実施時期

(1) ITパスポート試験，情報セキュリティマネジメント試験，基本情報技術者試験についてはコンピュータを用いる方式によって実施 1) し，それ以外の試験についてはペーパー方式によって実施する。

(2) 試験の実施時期は次のとおりとする。

〔各試験区分の試験実施時期〕

試験区分		実施時期	
ITパスポート試験		随時	
情報セキュリティマネジメント試験		随時	
基本情報技術者試験		随時	
応用情報技術者試験		春期	秋期
高度試験	ITストラテジスト試験	春期	
	システムアーキテクト試験	春期	
	プロジェクトマネージャ試験		秋期
	ネットワークスペシャリスト試験	春期	
	データベーススペシャリスト試験		秋期
	エンベデッドシステムスペシャリスト試験		秋期
	ITサービスマネージャ試験	春期	
	システム監査技術者試験		秋期
情報処理安全確保支援士試験		春期	秋期

注 1) 身体の不自由等によりコンピュータを用いる方式で受験できない者は，春期（4 月）と秋期（10 月）の年 2 回，ペーパー方式によって受験できる。

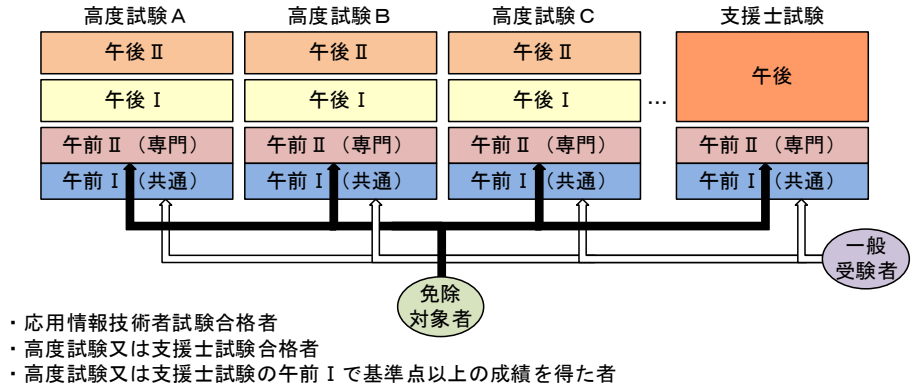
6. 免除制度

高度試験及び支援士試験の午前Ⅰ試験については，次の(1)～(3)のいずれかを満たすことによって，その後 2 年間受験を免除する。

(1) 応用情報技術者試験に合格する。

(2) いずれかの高度試験又は支援士試験に合格する。

(3) いずれかの高度試験又は支援士試験の午前Ⅰ試験で基準点以上の成績を得る。



7. 出題範囲

(1) IT パスポート試験

IT パスポート試験では，IT を活用するために必要な共通的基礎知識を問う。

〔IT パスポート試験の出題範囲〕

共通キャリア・スキルフレームワーク [1]					出題範囲（出題の考え方）
分野	大分類		中分類		
ストラテジ系	1	企業と法務	1	企業活動	・企業活動や経営管理に関する基本的な考え方を問う。 ・社会における IT 利活用の動向を問う。 ・身近な業務を分析し，問題を解決する手法や，PDCA の考え方，作業計画，図表及びグラフによるデータ可視化などの手法を問う。 ・データ（ビッグデータを含む）を分析して利活用することによる，業務改善や問題解決の手法を問う。 ・財務諸表，損益分岐点など会計と財務の基本的な考え方を問う。
			2	法務	・知的財産権（著作権法，産業財産権関連法規など），セキュリティ関連法規（サイバーセキュリティ基本法，不正アクセス禁止法など），個人情報保護法，労働基準法，労働者派遣法，その他の取引関連法規など，身近な職場の法律を問う。 ・ライセンス形態，ライセンス管理など，ソフトウェアライセンスの考え方，特徴を問う。 ・コンプライアンス，コーポレートガバナンスなどの企業の規範に関する考え方や，情報倫理を問う。 ・標準化の意義を問う。
	2	経営戦略	3	経営戦略マネジメント	・SWOT 分析，プロダクトポートフォリオマネジメント（PPM），顧客満足度，CRM，SCM などの代表的な経営情報分析手法や経営管理システムに関する基本的な考え方を問う。
			4	技術戦略マネジメント	・技術開発戦略の意義，目的などに関する理解を問う。
			5	ビジネスインダストリ	・電子商取引，POS システム，IC カード，RFID 応用システムなど，各種ビジネス分野での代表的なシステムの特徴を問う。 ・AI の活用領域及び活用目的，AI を利活用する上での留意事項を問う。 ・エンジニアリング分野や電子商取引での代表的なシステムの特徴を問う。 ・IoT を利用したシステムや組込みシステム，ロボットなどの特徴，動向などを問う。
	3	システム戦略	6	システム戦略	・情報システム戦略の意義と目的，戦略目標，業務改善，問題解決などに向けた考え方を問う。 ・業務モデルにおける代表的なモデリングの考え方を問う。 ・グループウェアやオフィスツール，SNS などを利用した，効果的なコミュニケーションについて問う。 ・コンピュータ及びネットワークを利用した業務の自動化，効率化の目的，考え方，方法について問う。 ・クラウドコンピューティングなど代表的なサービスを通じて，ソリューションビジネスの考え方を問う。 ・IT の技術動向（IoT，ビッグデータなどを含む）に関する知識を問う。 ・AI，ビッグデータ，IoT などの活用方法や考え方を問う。 ・システム活用促進・評価活動の意義と目的を問う。
			7	システム企画	・システム化計画の目的を問う。 ・現状分析などに基づく業務要件定義の目的を問う。 ・見積書，提案依頼書（RFP），提案書の流れなど調達の基本的な流れを問う。
マネジメント系	4	開発技術 [2]	8	システム開発技術	・要件定義，設計，プログラミング，テスト，ソフトウェア保守などシステム開発のプロセスの基本的な流れを問う。 ・システム開発における見積りの考え方を問う。
			9	ソフトウェア開発管理技術	・アジャイルなどをはじめとする，代表的な開発モデルや開発手法に関する意義や目的について問う。
	5	プロジェクトマネジメント	10	プロジェクトマネジメント	・プロジェクトマネジメントの意義，目的，考え方，プロセス，手法を問う。
	6	サービスマネジメント	11	サービスマネジメント	・IT サービスマネジメントの意義，目的，考え方を問う。 ・サービスデスク（ヘルプデスク）など関連項目に関する理解を問う。 ・コンピュータやネットワークなどのシステム環境整備に関する考え方

共通キャリア・スキルフレームワーク [1]					出題範囲（出題の考え方）
分野	大分類		中分類		
					を問う。
			12	システム監査	・システム監査の意義，目的，考え方，対象を問う。 ・監査の計画，実施，報告，フォローアップなど，システム監査の流れを問う。 ・内部統制，IT ガバナンスの意義，目的，考え方を問う。
テクノロジ系	7	基礎理論	13	基礎理論	・2 進数の特徴や演算，基数に関する基本的な考え方を問う。 ・ベン図などの集合，確率や統計，数値計算，数値解析に関する基本的な考え方を問う。 ・ビット，バイトなど，情報量の表し方や，デジタル化の基本的な考え方を問う。 ・AI の技術（機械学習，ディープラーニングなど）について基本的な考え方を問う。
			14	アルゴリズムとプログラミング	・アルゴリズムとデータ構造の基本的な考え方を問う。 ・流れ図や擬似言語の読み方，書き方を問う。 ・プログラミングの役割，プログラム言語の種類，特徴を問う。 ・HTML，XML などのデータ記述言語の種類とその基本的な使い方を問う。
	8	コンピュータシステム	15	コンピュータ構成要素	・コンピュータの基本的な構成と役割を問う。 ・プロセッサの性能と基本的な仕組み，メモリの種類と特徴を問う。 ・記録媒体の種類と特徴を問う。 ・入出力インタフェース，IoT デバイス，デバイスドライバなどの種類と特徴を問う。
			16	システム構成要素	・システムの構成，処理形態，利用形態の特徴を問う。 ・クライアントサーバシステムや仮想化システムの特徴を問う。 ・Web システムの特徴を問う。 ・システムの性能・信頼性・経済性の考え方を問う。
			17	ソフトウェア	・OS の必要性，機能，種類，特徴を問う。 ・アクセス方法，検索方法など，ファイル管理の考え方と基本的な機能の利用法，バックアップの基本的な考え方を問う。 ・オフィスツールなどソフトウェアパッケージの特徴と基本操作を問う。 ・オープンソースソフトウェア（OSS）の特徴を問う。
			18	ハードウェア	・コンピュータの種類と特徴を問う。 ・入出力装置（IoT 機器を含む）の種類と特徴を問う。
	9	技術要素	19	情報デザイン	・情報デザインのための技術，考え方を問う。 ・GUI，メニューなど，インタフェースの設計の考え方，特徴を問う。 ・Web デザインの考え方を問う。 ・ユニバーサルデザインの考え方を問う。
			20	情報メディア	・音声，静止画，動画などの表現の基本的な仕組みを問う。 ・JPEG，MPEG，MP3 など，符号化の種類と特徴を問う。 ・AR，VR など，マルチメディア技術の応用目的や特徴を問う。 ・情報の圧縮と伸長，メディアの特徴を問う。
			21	データベース	・データベース及びデータベース管理システム（DBMS）の意義，目的，考え方を問う。 ・データの分析，データベース設計，データモデルの考え方を問う。 ・データベースからのデータの抽出などの操作方法を問う。 ・同時実行制御（排他制御），障害回復など，データベースのトランザクション処理の考え方を問う。
			22	ネットワーク	・ネットワークに関する LAN や WAN の種類と構成，インターネットや LAN の接続装置の役割，IP アドレス（IPv6・IPv4）の仕組み，移動体通信の規格を問う。 ・通信プロトコルの必要性，代表的なプロトコルの役割を問う。 ・インターネットの特徴と基本的な仕組みを問う。 ・電子メール，インターネットサービスの特徴を問う。 ・モバイル通信，IoT 機器による通信や IoT ネットワーク，IP 電話など，通信サービスの種類と特徴，課金，伝送速度などに関する理解を問う。
			23	セキュリティ	・ネットワーク社会における安全な活動の観点から情報セキュリティの基本的な考え方，脅威と脆弱性を問う。 ・情報資産とリスク管理の目的，情報セキュリティマネジメントシステム・情報セキュリティポリシーの考え方，情報セキュリティ組織・機関（CSIRT など）を問う。 ・マルウェア（コンピュータウイルス，スパイウェア，ランサムウェアなど）や様々な攻撃手法（フィッシング，標的型攻撃，サイバー攻撃

共通キャリア・スキルフレームワーク 1)					出題範囲（出題の考え方）
分野	大分類		中分類		
					など）への対策としての，アクセス制御や SSL/TLS などの技術的セキュリティ対策の考え方，種類と特徴を問う。 ・入退室管理やアクセス管理，情報セキュリティ教育，内部不正対策などの，物理的・人的セキュリティ対策の考え方，種類と特徴を問う。 ・利用者 ID・パスワード，デジタル署名，生体認証（バイオメトリクス認証）など，認証技術の種類と特徴を問う。 ・共通鍵暗号方式，公開鍵暗号方式，ハイブリッド暗号方式，公開鍵基盤（PKI）など，暗号技術の仕組みと特徴を問う。 ・IoT 機器の安全な活用方法などの IoT システムのセキュリティについて問う。

注 1) 分野の並びは，出題上の配慮から，ストラテジ系，マネジメント系，テクノロジ系の順としている。

2) 大分類「開発技術」は，共通キャリア・スキルフレームワークの知識体系では分野「テクノロジ系知識」に含まれるが，ITパスポート試験ではソフトウェア開発の技術面よりもむしろソフトウェア開発プロセスのマネジメント面を中心に出題することから，分野「マネジメント系知識」に含めている。

(2) 情報セキュリティマネジメント試験，基本情報技術者試験，応用情報技術者試験，高度試験，支援士試験

各試験区分では，受験者の能力が当該試験区分における期待する技術水準に達しているかを，科目 A 試験及び午前の試験では知識を問うことによって，科目 B 試験及び午後の試験では技能を問うことによって評価する。

（科目 A 試験，午前の試験）

各試験区分における科目 A，午前の出題範囲は次のとおりとする。

〔試験区分別出題分野一覧表〕

分野	大分類		中分類		情報セキュリティマネジメント試験（参考）	基本情報技術者試験（科目A）	応用情報技術者試験	高度試験・支援士試験									
								午前Ⅰ（共通知識）	午前Ⅱ（専門知識）								
									ITストラテジスト試験	システムアーキテクト試験	プロジェクトマネージャ試験	ネットワークスペシャリスト試験	データベーススペシャリスト試験	エンベデッドシステムスペシャリスト試験	ITサービスマネージャ試験	システム監査技術者試験	情報処理安全確保支援士試験
テクノロジ系	1	基礎理論	1	基礎理論		○2	○3	○3									
			2	アルゴリズムとプログラミング													
	2	コンピュータシステム	3	コンピュータ構成要素						○3		○3	○3	◎4	○3		
			4	システム構成要素	○2					○3		○3	○3	○3	○3		
			5	ソフトウェア										◎4			
			6	ハードウェア										◎4			
	3	技術要素	7	ユーザーインタフェース						○3				○3			
			8	情報メディア													
			9	データベース	○2					○3			◎4		○3	○3	○3
			10	ネットワーク	○2					○3		◎4		○3	○3	○3	◎4
			11	セキュリティ	◎2	◎2	◎3	◎3	◎4	◎4	◎3	◎4	◎4	◎4	◎4	◎4	◎4
	4	開発技術	12	システム開発技術						◎4	○3	○3	○3	◎4		○3	○3
			13	ソフトウェア開発管理技術						○3	○3	○3	○3	○3			○3
マネジメント系	5	プロジェクトマネジメント	14	プロジェクトマネジメント	○2						◎4				◎4		
	6	サービスマネジメント	15	サービスマネジメント	○2						○3				◎4	○3	○3
			16	システム監査	○2										○3	◎4	○3
ストラテジ系	7	システム戦略	17	システム戦略	○2	○2	○3	○3	◎4	○3							
			18	システム企画	○2				◎4	◎4	○3			○3			
	8	経営戦略	19	経営戦略マネジメント					◎4					○3		○3	
			20	技術戦略マネジメント					○3					○3			
			21	ビジネスインダストリ					◎4					○3			
	9	企業と法務	22	企業活動	○2				◎4							○3	
			23	法務	◎2				○3		○3				○3	◎4	

注記 1　○は出題範囲であることを，◎は出題範囲のうちの重点分野であることを表す。

注記 2　2，3，4 は技術レベルを表し，4 が最も高度で，上位は下位を包含する。

注 1)　“中分類 11：セキュリティ”の知識項目には技術面・管理面の両方が含まれるが，高度試験の各試験区分では，各人材像にとって関連性の強い知識項目をレベル 4 として出題する。

〔科目 A の出題範囲（情報セキュリティマネジメント試験）〕

➢ 重点分野

共通キャリア・スキルフレームワーク							知識項目例 （情報セキュリティマネジメント試験は「IT を利活用する者」を主な対象とすることから，技術的な項目は除外している）
分野	大分類		中分類		小分類		
テクノロジ系	1	技術要素（セキュリティ）	1	セキュリティ	1	情報セキュリティ	情報の機密性・完全性・可用性，多層防御，脅威，マルウェア・不正プログラム，脆弱性，不正のメカニズム，攻撃者の種類・動機，サイバー攻撃（SQL インジェクション，クロスサイトスクリプティング，DoS 攻撃，フィッシング，パスワードリスト攻撃，標的型攻撃，AI を悪用した攻撃ほか），暗号技術（共通鍵，公開鍵，秘密鍵，RSA，AES，ハイブリッド暗号，ハッシュ関数ほか），認証技術（デジタル署名，メッセージ認証，タイムスタンプほか），利用者認証（利用者 ID・パスワード，多要素認証ほか），生体認証技術，公開鍵基盤（PKI，デジタル証明書ほか）　など
					2	情報セキュリティ管理	情報資産とリスクの概要，情報資産の調査・分類，リスクの種類，情報セキュリティリスクアセスメント及びリスク対応，情報セキュリティ継続，情報セキュリティ諸規程（情報セキュリティポリシーを含む組織内規程），ISMS，情報セキュリティ管理策（組織的管理策，人的管理策，物理的管理策，技術的管理策），情報セキュリティ組織・機関（CSIRT，PSIRT，SOC（Security Operation Center），エシカルハッカーほか），コンピュータ不正アクセス対策基準，コンピュータウイルス対策基準，PCI DSS　など
					3	セキュリティ技術評価	CVSS，脆弱性検査，ペネトレーションテスト　など
					4	情報セキュリティ対策	情報セキュリティ啓発（教育，訓練ほか），組織における内部不正防止ガイドライン，マルウェア・不正プログラム対策，ランサムウェア対策，不正アクセス対策，情報漏えい対策，アカウント管理，ログ管理，脆弱性管理，入退室管理，アクセス制御，侵入検知/侵入防止，検疫ネットワーク，携帯端末（携帯電話，スマートフォン，タブレット端末ほか）のセキュリティ，クラウドサービスのセキュリティ，IoT のセキュリティ，AI を使ったセキュリティ技術，AI そのものを守るセキュリティ技術，セキュリティ製品・サービス（ファイアウォール，WAF，DLP，SIEM ほか），デジタルフォレンジックス　など
					5	セキュリティ実装技術	セキュアプロトコル（IPsec，SSL/TLS，SSH，WPA3 ほか）ネットワークセキュリティ，データベースセキュリティ，アプリケーションセキュリティ　など
ストラテジ系	2	企業と法務（法務）	2	法務	1	知的財産権	著作権法，不正競争防止法（営業秘密ほか）　など
					2	セキュリティ関連法規	サイバーセキュリティ基本法，不正アクセス禁止法，刑法（ウイルス作成罪ほか），個人情報保護法，特定個人情報の適正な取扱いに関するガイドライン，プロバイダ責任制限法，特定電子メール法　など
					3	労働関連・取引関連法規	労働基準法，外部委託契約，ソフトウェア契約，ライセンス契約，守秘契約（NDA），労働者派遣法　など
					4	その他の法律・ガイドライン・技術者倫理	コンプライアンス，情報倫理，技術者倫理　など
					5	標準化関連	JIS，ISO，IEEE などの関連機構の役割，標準化団体など

注記 1　出題上の配慮から，重点分野（セキュリティ，法務）を先頭に配置している。
注記 2　「7.出題範囲 科目 A 試験，午前の試験の試験区分別出題分野一覧表」のうち，出題範囲に含まない分野（基礎理論，開発技術など）の分類番号は前詰めしている。

➢ **その他の分野**

共通キャリア・スキルフレームワーク						知識項目例 （情報セキュリティマネジメント試験は「IT を利活用する者」を主な対象とすることから，技術的な項目は除外している）
分野	大分類		中分類	小分類		
テクノロジ系	3	コンピュータシステム	3 システム構成要素	1	システムの構成	システムの処理形態，システムの利用形態，クライアントサーバシステム，Web システム，シンクライアントシステム，フォールトトレラントシステム，RAID，NAS，SAN，P2P，クラスタ　など
				2	システムの評価指標	システムの性能指標，システムの性能特性と評価，信頼性計算，信頼性指標，信頼性特性と評価，経済性の評価　など
	4	技術要素（セキュリティ以外）	4 データベース	1	データベース方式	データベースの種類と特徴，DBMS　など
				2	データベース設計	データ分析，メタデータ　など
				3	データ操作	データベースを操作するための言語（SQL ほか）　など
				4	トランザクション処理	排他制御，リカバリ処理　など
				5	データベース応用	データウェアハウス，ビッグデータ　など
			5 ネットワーク	1	ネットワーク方式	ネットワークの種類と特徴（WAN/LAN，有線・無線ほか），インターネット技術，パケット交換網，RADIUS　など
				2	データ通信と制御	伝送方式と回線，LAN 間接続装置　など
				3	通信プロトコル	プロトコルとインタフェース，HTTP，IPv6　など
				4	ネットワーク管理	障害管理　など
				5	ネットワーク応用	インターネット，イントラネット，エクストラネット，モバイル通信，通信サービス　など
マネジメント系	5	プロジェクトマネジメント	6 プロジェクトマネジメント	1	プロジェクトマネジメント	プロジェクト，プロジェクトマネジメント，プロジェクトの環境　など
				2	プロジェクトの統合	プロジェクト憲章の作成，プロジェクト全体計画（プロジェクト計画及びプロジェクトマネジメント計画）の作成，プロジェクト作業の指揮，プロジェクト作業の管理，変更の管理，プロジェクトフェーズ又はプロジェクトの終結，得た教訓の収集　など
				3	プロジェクトのステークホルダ	ステークホルダの特定，ステークホルダのマネジメント　など
				4	プロジェクトのスコープ	スコープの定義，WBS の作成，活動の定義，スコープの管理　など
				5	プロジェクトの資源	プロジェクトチームの編成，資源の見積り，プロジェクト組織の定義，プロジェクトチームの開発，資源の管理，プロジェクトチームのマネジメント　など
				6	プロジェクトの時間	活動の順序付け，活動期間の見積り，スケジュールの作成，スケジュールの管理　など
				7	プロジェクトのコスト	コストの見積り，予算の作成，コストの管理　など
				8	プロジェクトのリスク	リスクの特定，リスクの評価，リスクへの対応，リスクの管理　など
				9	プロジェクトの品質	品質の計画，品質保証の遂行，品質管理の遂行　など
				10	プロジェクトの調達	調達の計画，供給者の選定，調達の運営管理　など

共通キャリア・スキルフレームワーク							知識項目例 （情報セキュリティマネジメント試験は「IT を利活用する者」を主な対象とすることから，技術的な項目は除外している）
分野	大分類		中分類		小分類		
					11	プロジェクトのコミュニケーション	コミュニケーションの計画，情報の配布，コミュニケーションのマネジメント　など
	6	サービスマネジメント	7	サービスマネジメント	1	サービスマネジメント	サービスレベル合意書（SLA），サービスマネジメントシステム　など
					2	サービスマネジメントシステムの計画及び運用	サービスの計画，サービスカタログ管理，資産管理，構成管理，事業関係管理，サービスレベル管理，供給者管理，需要管理，容量・能力管理，変更管理，サービスの設計及び移行，リリース及び展開管理，インシデント管理，サービス要求管理，問題管理，サービス可用性管理，サービス継続管理　など
					3	パフォーマンス評価及び改善	パフォーマンス評価（サービスの報告ほか），改善（不適合及び是正処置，継続的改善）　など
					4	サービスの運用	システム運用管理，運用オペレーション，サービスデスク，システムの監視と操作　など
					5	ファシリティマネジメント	設備管理（電気設備・空調設備ほか），施設管理　など
			8	システム監査	1	システム監査	システム監査の体制整備，監査人の倫理，監査の独立性と客観性の保持，監査の能力及び正当な注意と秘密の保持，システム監査の計画・実施・報告・フォローアップ，情報セキュリティ監査　など
					2	内部統制	内部統制の意義と目的，内部統制の限界，IT への対応（IT 環境への対応，IT の利用，IT に係る全般統制，IT に係る業務処理統制），CSA（統制自己評価）　など
ストラテジ系	7	システム戦略	9	システム戦略	1	情報システム戦略	情報システム戦略の意義と目的，情報システム戦略遂行のための組織体制　など
					2	業務プロセス	BPR，業務改善　など
					3	ソリューションビジネス	ソリューションビジネスの種類とサービス形態，ASP，クラウドサービス（SaaS，PaaS，IaaS ほか）　など
					4	システム活用促進・評価	デジタルリテラシー，デジタル技術の有効活用（IoT，AI（生成 AI を含む）ほか），普及啓発，システム利用実態の評価・検証，システム廃棄　など
			10	システム企画	1	システム化計画	情報システム導入リスク分析　など
					2	要件定義	要求分析，ユーザーニーズ調査，現状分析，課題定義，業務要件定義，機能要件定義，非機能要件定義　など
					3	調達計画・実施	調達計画，提案依頼書（RFP），提案評価基準，見積書，提案書，調達選定　など
	8	企業と法務（法務以外）	11	企業活動	1	経営・組織論	経営管理，PDCA，経営組織（CIO，CEO ほか），ヒューマンリソース（ケーススタディほか），行動科学（リーダーシップ，コミュニケーションほか），リスクマネジメント，BCP，社会における IT 利活用の動向（デジタルトランスフォーメーション（DX）ほか）　など
					2	業務分析・データ利活用	OR・IE（検査手法・品質管理手法ほか），データ利活用（データの収集，データの加工・分析，データの可視化ほか）　など
					3	会計・財務	財務諸表，減価償却，損益分岐点，原価，リースとレンタル　など

〔科目 A，午前の出題範囲（基本情報技術者試験，応用情報技術者試験，高度試験，支援士試験）〕

共通キャリア・スキルフレームワーク							知識項目例
分野	大分類		中分類		小分類		
テクノロジ系	1	基礎理論	1	基礎理論	1	離散数学	2 進数，基数，数値表現，演算精度，集合，ベン図，論理演算，命題　など
					2	応用数学	確率・統計，数値解析，数式処理，グラフ理論，待ち行列理論　など
					3	情報に関する理論	符号理論，述語論理，オートマトン，形式言語，計算量，AI（人工知能），機械学習，ディープラーニング（深層学習），ディープラーニングの応用，コンパイラ理論，プログラミング言語論・意味論　など
					4	通信に関する理論	伝送理論（伝送路，変復調方式，多重化方式，誤り検出・訂正，信号同期方式ほか）　など
					5	計測・制御に関する理論	信号処理，フィードバック制御，フィードフォワード制御，応答特性，制御安定性，各種制御，センサー・アクチュエーターの種類と動作特性　など
			2	アルゴリズムとプログラミング	1	データ構造	スタックとキュー，リスト，配列，木構造，2 分木など
					2	アルゴリズム	整列，併合，探索，再帰，文字列処理，自然言語処理，流れ図の理解，アルゴリズム設計　など
					3	プログラミング	既存言語を用いたプログラミング（プログラミング作法，プログラム構造，データ型，文法の表記法ほか）など
					4	プログラム言語	プログラム言語（アセンブラ言語，C，C++，COBOL，Java [1)]，ECMAScript，Ruby，Perl，PHP，Python ほか）の種類と特徴，共通言語基盤（CLI）　など
					5	その他の言語	マークアップ言語（HTML，XML ほか）の種類と特徴，データ記述言語（DDL）　など
	2	コンピュータシステム	3	コンピュータ構成要素	1	プロセッサ	コンピュータ及びプロセッサの種類，構成・動作原理，割込み，性能と特性，構造と方式，RISC と CISC，命令とアドレッシング，マルチコアプロセッサ　など
					2	メモリ	メモリの種類と特徴，メモリシステムの構成と記憶階層（キャッシュ，主記憶，補助記憶ほか），アクセス方式，RAM ファイル，メモリの容量と性能，記録媒体の種類と特徴　など
					3	バス	バスの種類と特徴，バスのシステムの構成，バスの制御方式，バスのアクセスモード，バスの容量と性能など
					4	入出力デバイス	入出力デバイスの種類と特徴，入出力インタフェース，デバイスドライバ，デバイスとの同期，アナログ・デジタル変換，DMA　など
					5	入出力装置	入力装置，出力装置，表示装置，補助記憶装置・記憶媒体，通信制御装置，駆動装置，撮像装置　など
			4	システム構成要素	1	システムの構成	システムの処理形態，システムの利用形態，システムの適用領域，仮想化，クライアントサーバシステム，Web システム，シンクライアントシステム，フォールトトレラントシステム，RAID，NAS，SAN，ハイパフォーマンスコンピューティング（HPC），クラウドコンピューティング，クラスタ　など
					2	システムの評価指標	システムの性能指標，システムの性能特性と評価，システムの信頼性・経済性の意義と目的，信頼性計算，信頼性指標，信頼性特性と評価，経済性の評価，キャパシティプランニング　など

共通キャリア・スキルフレームワーク							知識項目例
分野	大分類		中分類		小分類		
			5	ソフトウェア	1	オペレーティングシステム	OS の種類と特徴，OS の機能，多重プログラミング，仮想記憶，ジョブ管理，プロセス/タスク管理，データ管理，入出力管理，記憶管理，割込み，ブートストラップ　など
					2	ミドルウェア	各種ミドルウェア（OS などの API，Web API，各種ライブラリ，コンポーネントウェア，シェル，開発フレームワークほか）の役割と機能，ミドルウェアの選択と利用　など
					3	ファイルシステム	ファイルシステムの種類と特徴，アクセス手法，検索手法，ディレクトリ管理，バックアップ，ファイル編成　など
					4	開発ツール	設計ツール，構築ツール，ローコード/ノーコードツール，テストツール，言語処理ツール（コンパイラ，インタプリタ，リンカ，ローダほか），エミュレーター，シミュレーター，インサーキットエミュレーター（ICE），ツールチェーン，統合開発環境　など
					5	オープンソースソフトウェア	OSS の種類と特徴，UNIX 系 OS，オープンソースコミュニティ，LAMP/LAPP，オープンソースライブラリ，OSS の利用・活用と考慮点（安全性，信頼性ほか），動向　など
			6	ハードウェア	1	ハードウェア	電気・電子回路，機械・制御，論理設計，構成部品及び要素と実装，半導体素子，システム LSI，SoC（System on a Chip），FPGA，MEMS，診断プログラム，消費電力　など
	3	技術要素	7	ユーザーインタフェース	1	ユーザーインタフェース技術	情報アーキテクチャ，GUI，音声認識，画像認識，動画認識，特徴抽出，学習機能，インタラクティブシステム，ユーザビリティ，アクセシビリティ　など
					2	UX/UI デザイン	UX デザイン，情報デザイン，帳票設計，画面設計，コード設計，Web デザイン，人間中心設計，ユニバーサルデザイン，ユーザビリティ評価　など
			8	情報メディア	1	マルチメディア技術	オーサリング環境，音声処理，静止画処理，動画処理，メディア統合，圧縮・伸長，MPEG　など
					2	マルチメディア応用	色の表現（色相，明度，彩度ほか），画像の品質（画素，解像度ほか），グラフィックスソフトウェア，CG（Computer Graphics），XR（クロスリアリティ），メタバース，メディア応用，モーションキャプチャ　など
			9	データベース	1	データベース方式	データベースの種類と特徴，データベースのモデル，DBMS　など
					2	データベース設計	データ分析，メタデータ，データベースの論理設計，データの正規化，データベースのパフォーマンス設計，データベースの物理設計　など
					3	データ操作	データベースの操作，データベースを操作するための言語（SQL ほか），関係代数　など
					4	トランザクション処理	排他制御，リカバリ処理，トランザクション管理，データベースの性能向上，データへのアクセス制御　など
					5	データベース応用	データウェアハウス，データマイニング，分散データベース，リポジトリ，ビッグデータ　など
			10	ネットワーク	1	ネットワーク方式	ネットワークの種類と特徴（WAN/LAN，有線・無線，センサーネットワークほか），インターネット技術，回線に関する計算，パケット交換網，QoS，RADIUS　など

共通キャリア・スキルフレームワーク						知識項目例
分野	大分類		中分類		小分類	
				2	データ通信と制御	伝送方式と回線，LAN 間接続装置，回線接続装置，電力線通信（PLC），OSI 基本参照モデル，メディアアクセス制御（MAC），データリンク制御，ルーティング制御，フロー制御　など
				3	通信プロトコル	プロトコルとインタフェース，TCP/IP，HDLC，CORBA，HTTP，DNS，SOAP，IPv6　など
				4	ネットワーク管理	ネットワーク仮想化（SDN，NFV ほか），ネットワーク運用管理（SNMP），障害管理，性能管理，トラフィック監視　など
				5	ネットワーク応用	インターネット，イントラネット，エクストラネット，ネットワーク OS，通信サービス，LTE，5G，モバイル通信技術　など
			11	1	情報セキュリティ	情報の機密性・完全性・可用性，多層防御，脅威，マルウェア・不正プログラム，脆弱性，不正のメカニズム，攻撃者の種類・動機，サイバー攻撃（SQL インジェクション，クロスサイトスクリプティング，DoS 攻撃，フィッシング，パスワードリスト攻撃，標的型攻撃，AI を悪用した攻撃ほか），暗号技術（共通鍵，公開鍵，秘密鍵，RSA，AES，ハイブリッド暗号，ハッシュ関数ほか），認証技術（デジタル署名，メッセージ認証，タイムスタンプほか），利用者認証（利用者 ID・パスワード，多要素認証，パスワードレス認証，アイデンティティ連携（OpenID，SAML）ほか），生体認証技術，公開鍵基盤（PKI，認証局，デジタル証明書ほか），政府認証基盤（GPKI，ブリッジ認証局ほか）　など
				2	情報セキュリティ管理	情報資産とリスクの概要，情報資産の調査・分類，リスクの種類，情報セキュリティリスクアセスメント及びリスク対応，情報セキュリティ継続，情報セキュリティ諸規程（情報セキュリティポリシーを含む組織内規程），ISMS，情報セキュリティ管理策（組織的管理策，人的管理策，物理的管理策，技術的管理策），情報セキュリティ組織・機関（CSIRT，SOC（Security Operation Center），エシカルハッカーほか），コンピュータ不正アクセス対策基準，コンピュータウイルス対策基準，PCI DSS　など
				3	セキュリティ技術評価	ISO/IEC 15408（コモンクライテリア），JISEC（IT セキュリティ評価及び認証制度），JCMVP（暗号モジュール試験及び認証制度），CVSS，脆弱性検査，ペネトレーションテスト　など
				4	情報セキュリティ対策	情報セキュリティ啓発（教育，訓練ほか），組織における内部不正防止ガイドライン，マルウェア・不正プログラム対策，ランサムウェア対策，不正アクセス対策，情報漏えい対策，アカウント管理，ログ管理，脆弱性管理，入退室管理，アクセス制御，侵入検知/侵入防止，検疫ネットワーク，携帯端末（携帯電話，スマートフォン，タブレット端末ほか）のセキュリティ，クラウドサービスのセキュリティ，IoT のセキュリティ，AI を使ったセキュリティ技術，AI そのものを守るセキュリティ技術，セキュリティ製品・サービス（ファイアウォール，WAF，DLP，SIEM ほか），デジタルフォレンジックス　など

共通キャリア・スキルフレームワーク							知識項目例
分野	大分類		中分類		小分類		
					5	セキュリティ実装技術	セキュアプロトコル（IPsec，SSL/TLS，SSH，WPA3 ほか），認証・認可技術（SPF，DKIM，SMTP-AUTH，OAuth，DNSSEC ほか），セキュア OS，ネットワークセキュリティ，データベースセキュリティ，アプリケーションセキュリティ，コンテナセキュリティ，セキュアプログラミング　など
	4	開発技術	12	システム開発技術	1	システム要件定義・ソフトウェア要件定義	システム要件定義（機能，境界，能力，業務・組織及び利用者の要件，設計及び実装の制約条件，適格性確認要件ほか），システム要件の評価，ソフトウェア要件定義（機能，境界，能力，インタフェース，業務モデル，データモデルほか），ソフトウェア要件の評価，UX を考慮した要件の定義　など
					2	設計	システム設計（ハードウェア・ソフトウェア・サービス・手作業の機能分割，ハードウェア構成決定，ソフトウェア構成決定，システム処理方式決定，データベース方式決定ほか），システム統合テストの設計，アーキテクチャ及びシステム要素の評価，ソフトウェア設計（ソフトウェア構造とソフトウェア要素の設計ほか），インタフェース設計，UX デザイン，ソフトウェアユニットのテストの設計，ソフトウェア統合テストの設計，ソフトウェア要素の評価，ソフトウェア品質，レビュー，ソフトウェア設計手法（プロセス中心設計，データ中心設計，構造化設計，オブジェクト指向設計ほか），モジュールの設計，部品化と再利用，アーキテクチャパターン，デザインパターン　など
					3	実装・構築	ソフトウェアユニットの作成，コーディング標準，コーディング支援手法，コードレビュー，メトリクス計測，デバッグ，テスト手法，テスト準備（テスト環境，テストデータほか），テストの実施，テスト結果の評価　など
					4	統合・テスト	統合テスト計画，統合テストの準備（テスト環境，テストデータほか），統合テストの実施，検証テストの実施，統合及び検証テスト結果の評価，チューニング，テストの種類（機能テスト，非機能要件テスト，性能テスト，負荷テスト，セキュリティテスト，回帰テストほか）　など
					5	導入・受入れ支援	導入計画の作成，導入の実施，受入れレビューと受入れテスト，納入と受入れ，教育訓練，利用者用文書類，妥当性確認テストの実施，妥当性確認テストの結果の管理　など
					6	保守・廃棄	保守の形態，保守の手順，廃棄　など
			13	ソフトウェア開発管理技術	1	開発プロセス・手法	ソフトウェア開発モデル，アジャイル開発，DevOps，ローコード/ノーコード開発，ソフトウェア再利用，リバースエンジニアリング，マッシュアップ，構造化手法，形式手法，ソフトウェアライフサイクルプロセス（SLCP），プロセス成熟度　など
					2	知的財産適用管理	著作権管理，特許管理，保管管理，技術的保護（コピーガード，DRM，アクティベーションほか）　など
					3	開発環境管理	開発環境稼働状況管理，開発環境構築，設計データ管理，ツール管理，ライセンス管理　など

共通キャリア・スキルフレームワーク							知識項目例
分野	大分類		中分類		小分類		
					4	構成管理・変更管理	構成識別体系の確立，変更管理，構成状況の記録，品目の完全性保証，リリース管理及び出荷　など
マネジメント系	5	プロジェクトマネジメント	14	プロジェクトマネジメント	1	プロジェクトマネジメント	プロジェクト，プロジェクトマネジメント，プロジェクトの環境，プロジェクトガバナンス，プロジェクトライフサイクル，プロジェクトの制約，テーラリングなど
					2	プロジェクトの統合	プロジェクト憲章の作成，プロジェクト全体計画（プロジェクト計画及びプロジェクトマネジメント計画）の作成，プロジェクト作業の指揮，プロジェクト作業の管理，変更の管理，プロジェクトフェーズ又はプロジェクトの終結，得た教訓の収集　など
					3	プロジェクトのステークホルダ	ステークホルダの特定，ステークホルダのマネジメント　など
					4	プロジェクトのスコープ	スコープの定義，WBS の作成，活動の定義，スコープの管理　など
					5	プロジェクトの資源	プロジェクトチームの編成，資源の見積り，プロジェクト組織の定義，プロジェクトチームの開発，資源の管理，プロジェクトチームのマネジメント　など
					6	プロジェクトの時間	活動の順序付け，活動期間の見積り，スケジュールの作成，スケジュールの管理　など
					7	プロジェクトのコスト	コストの見積り，予算の作成，コストの管理　など
					8	プロジェクトのリスク	リスクの特定，リスクの評価，リスクへの対応，リスクの管理　など
					9	プロジェクトの品質	品質の計画，品質保証の遂行，品質管理の遂行　など
					10	プロジェクトの調達	調達の計画，供給者の選定，調達の運営管理　など
					11	プロジェクトのコミュニケーション	コミュニケーションの計画，情報の配布，コミュニケーションのマネジメント　など
	6	サービスマネジメント	15	サービスマネジメント	1	サービスマネジメント	サービスマネジメント，サービスマネジメントシステム，サービス，サービスライフサイクル，ITIL [2)]，サービスの要求事項，サービスレベル合意書（SLA），サービス及びサービスマネジメントシステムのパフォーマンス，顧客，サービス提供者　など
					2	サービスマネジメントシステムの計画及び運用	サービスマネジメントシステムの計画，サービスマネジメントシステムの支援（文書化した情報，知識ほか），サービスポートフォリオ（サービスの提供，サービスの計画，サービスライフサイクルに関与する関係者の管理，サービスカタログ管理，資産管理，構成管理），関係及び合意（事業関係管理，サービスレベル管理，供給者管理），供給及び需要（サービスの予算業務及び会計業務，需要管理，容量・能力管理），サービスの設計・構築・移行（変更管理，サービスの設計及び移行，リリース及び展開管理），解決及び実現（インシデント管理，サービス要求管理，問題管理），サービス保証（サービス可用性管理，サービス継続管理）　など
					3	パフォーマンス評価及び改善	パフォーマンス評価（監視・測定・分析・評価，内部監査，マネジメントレビュー，サービスの報告），改善（不適合及び是正処置，継続的改善）　など

共通キャリア・スキルフレームワーク							知識項目例
分野	大分類		中分類		小分類		
					4	サービスの運用	システム運用管理，運用オペレーション，サービスデスク，運用の資源管理，システムの監視と操作，スケジュール設計，運用支援ツール（監視ツール，診断ツールほか） など
					5	ファシリティマネジメント	設備管理（電気設備・空調設備ほか），施設管理，施設・設備の維持保全，環境側面 など
			16	システム監査	1	システム監査	システム監査の体制整備，監査人の倫理，監査の独立性と客観性の保持，監査の能力及び正当な注意と秘密の保持，システム監査の計画・実施・報告・フォローアップ，システム監査基準，システム監査技法，監査証拠，監査調書，情報セキュリティ監査，監査による保証又は助言 など
					2	内部統制	内部統制の意義と目的，内部統制の限界，内部統制報告制度，IT への対応（IT 環境への対応，IT の利用，IT に係る全般統制，IT に係る業務処理統制），CSA（統制自己評価） など
ストラテジ系	7	システム戦略	17	システム戦略	1	情報システム戦略	情報システム戦略の意義と目的，情報システム戦略の方針及び目標設定，情報システム化基本計画，情報システム戦略遂行のための組織体制，情報システム投資計画，ビジネスモデル，業務モデル，情報システムモデル，エンタープライズアーキテクチャ（EA），プログラムマネジメント，システムオーナー，データオーナー，プロセスフレームワーク，コントロールフレームワーク，品質統制（品質統制フレームワーク），情報システム戦略評価，情報システム戦略実行マネジメント，IT 投資マネジメント，IT 経営力指標 など
					2	業務プロセス	BPR，業務分析，業務改善，業務設計，ビジネスプロセスマネジメント（BPM），BPO，オフショア，SFA など
					3	ソリューションビジネス	ソリューションビジネスの種類とサービス形態，業務パッケージ，問題解決支援，ASP，SOA，クラウドサービス（SaaS，PaaS，IaaS ほか） など
					4	システム活用促進・評価	デジタルリテラシー，普及啓発，人材育成計画，システム利用実態の評価・検証，デジタルディバイド，システム廃棄 など
			18	システム企画	1	システム化計画	システム化構想，システム化基本方針，全体開発スケジュール，プロジェクト推進体制，要員教育計画，開発投資対効果，投資の意思決定法（PBP，DCF 法ほか），IT ポートフォリオ，システムライフサイクル，情報システム導入リスク分析 など
					2	要件定義	要求分析，ユーザーニーズ調査，現状分析，課題定義，要件定義手法，業務要件定義，機能要件定義，非機能要件定義，利害関係者要件の確認，情報システム戦略との整合性検証 など
					3	調達計画・実施	調達計画，調達の要求事項，調達の条件，提案依頼書（RFP），提案評価基準，見積書，提案書，調達選定，調達リスク分析，内外作基準，ソフトウェア資産管理，ソフトウェアのサプライチェーンマネジメント など
	8	経営戦略	19	経営戦略マネジメント	1	経営戦略手法	競争戦略，差別化戦略，ブルーオーシャン戦略，ESG 投資，コアコンピタンス，M&A，エコシステム，アライアンス，グループ経営，企業理念，SWOT 分析，VRIO 分析，PPM，バリューチェーン分析，成長マトリクス，アウトソーシング，シェアードサービス，インキュベーター など

共通キャリア・スキルフレームワーク							知識項目例
分野	大分類		中分類		小分類		
					2	マーケティング	マーケティング理論，マーケティング手法，マーケティング分析，バリュープロポジション，マーケティングミックス，デザイン思考，CX デザイン，サービスデザイン，ライフタイムバリュー（LTV），消費者行動モデル，製品戦略，製品ライフサイクル，Web マーケティング戦略，ブランド戦略，価格戦略　など
					3	ビジネス戦略と目標・評価	ビジネス戦略立案，ビジネス環境分析，ニーズ・ウォンツ分析，競合分析，PEST 分析，戦略目標，CSF，KPI，KGI，バランススコアカード　など
					4	経営管理システム	CRM，SCM，ERP，意思決定支援，ナレッジマネジメント，企業内情報ポータル（EIP）　など
			20	技術戦略マネジメント	1	技術開発戦略の立案	製品動向，技術動向，成功事例，発想法，コア技術，技術研究，技術獲得，技術供与，技術提携，技術経営（MOT），産学官連携，標準化戦略　など
					2	技術開発計画	技術開発投資計画，技術開発拠点計画，人材計画，技術ロードマップ，製品応用ロードマップ，特許取得ロードマップ　など
			21	ビジネスインダストリ	1	ビジネスシステム	流通情報システム，物流情報システム，公共情報システム，医療情報システム，金融情報システム，電子政府，POS システム，XBRL，スマートグリッド，Web 会議システム，IoT，AI 利活用の原則及び指針，人間中心の AI 社会原則，AI の活用領域及び活用目的，AI による認識，AI による自動化，生成 AI，AI を利活用する上での留意事項，説明可能な AI，ハルシネーション　など
					2	エンジニアリングシステム	エンジニアリングシステムの意義と目的，生産管理システム，MRP，PDM，CAE　など
					3	e-ビジネス	EC（BtoB，BtoC などの電子商取引），電子商取引の留意事項，電子決済システム，デジタル通貨，EDI，IC カード・RFID 応用システム，ソーシャルメディア（SNS，ミニブログほか），ロングテール　など
					4	民生機器	AV 機器，家電機器，個人用情報機器（携帯電話，スマートフォン，タブレット端末ほか），教育・娯楽機器，コンピュータ周辺/OA 機器，業務用端末機器，民生用通信端末機器　など
					5	産業機器	通信設備機器，運輸機器/建設機器，工業制御/FA 機器/産業機器，設備機器，医療機器，分析機器・計測機器，スマートファクトリー，スマート農業，ロボット，MaaS，自動車制御システム　など
	9	企業と法務	22	企業活動	1	経営・組織論	経営管理，PDCA，経営組織（事業部制，カンパニー制，CIO，CEO ほか），コーポレートガバナンス，CSR，IR，コーポレートアイデンティティ，グリーン IT，ヒューマンリソース（OJT，目標管理，ケーススタディ，裁量労働制ほか），行動科学（リーダーシップ，コミュニケーション，テクニカルライティング，プレゼンテーション，ネゴシエーション，モチベーションほか），TQM，リスクマネジメント，BCP，株式公開（IPO），社会における IT 利活用の動向（デジタルトランスフォーメーション（DX），カーボンニュートラル，データ駆動社会ほか）　など

共通キャリア・スキルフレームワーク							知識項目例
分野	大分類		中分類		小分類		
					2	業務分析・データ利活用	線形計画法，在庫問題，PERT/CPM，ゲーム理論，IE 分析手法，検査手法，品質管理手法，データ利活用，データの収集，データの種類・特徴，データの加工・分析，特徴量エンジニアリング，データサイエンス，データ分析における統計的手法，データの可視化，モデル化，シミュレーション，データ同化，統計的バイアス，認知バイアス　など
					3	会計・財務	財務会計，管理会計，会計基準，財務諸表，連結会計，減価償却，損益分岐点，財務指標，原価，リースとレンタル，資金計画と資金管理，資産管理，経済性計算，IFRS　など
			23	法務	1	知的財産権	著作権法，産業財産権法，不正競争防止法（営業秘密ほか）　など
					2	セキュリティ関連法規	サイバーセキュリティ基本法，不正アクセス禁止法，刑法（ウイルス作成罪ほか），個人情報保護法，特定個人情報の適正な取扱いに関するガイドライン，プロバイダ責任制限法，特定電子メール法　など
					3	労働関連・取引関連法規	労働基準法，労働関連法規，外部委託契約，ソフトウェア契約，ライセンス契約，OSS ライセンス（GPL，BSD ライセンスほか），パブリックドメイン，クリエイティブコモンズ，守秘契約（NDA），下請法，労働者派遣法，民法，商法，公益通報者保護法，特定商取引法　など
					4	その他の法律・ガイドライン・技術者倫理	コンプライアンス，情報公開，電気通信事業法，ネットワーク関連法規，会社法，金融商品取引法，環境関連法，産業機器関連法，各種税法，輸出関連法規，システム管理基準，ソフトウェア管理ガイドライン，情報倫理，技術者倫理，プロフェッショナリズム　など
					5	標準化関連	JIS，ISO，IEEE などの関連機構の役割，標準化団体，国際認証の枠組み（認定/認証/試験機関），各種コード（文字コードほか），JIS Q 15001，ISO 9000，ISO 14000　など

注 1)　Java は，Oracle Corporation 及びその子会社，関連会社の米国及びその他の国における登録商標又は商標です。

2)　ITILは，AXELOS Limited の登録商標です。

（科目 B 試験，午後の試験）

各試験区分における科目 B，午後の出題範囲は次のとおりとする。

情報セキュリティマネジメント試験

1　情報セキュリティマネジメントの計画，情報セキュリティ要求事項に関すること

（1）情報資産管理の計画

情報資産の特定及び価値の明確化，管理責任及び利用の許容範囲の明確化，情報資産台帳の作成　など

（2）情報セキュリティリスクアセスメント及びリスク対応

リスクの特定・分析・評価，リスク対応策の検討，リスク対応計画の策定　など

（3）情報資産に関する情報セキュリティ要求事項の提示

物理的管理策，部門の情報システムの調達・利用に関する技術的管理策及び組織的管理策など

（4）情報セキュリティを継続的に確保するための情報セキュリティ要求事項の提示

2　情報セキュリティマネジメントの運用・継続的改善に関すること

（1）情報資産の管理

情報資産台帳の維持管理，媒体の管理，利用状況の記録　など

（2）部門の情報システム利用時の情報セキュリティの確保

マルウェアからの保護，バックアップ，ログ取得及び監視，情報の転送における情報セキュリティの維持，脆弱性管理，利用者アクセスの管理，運用状況の点検　など

（3）業務の外部委託における情報セキュリティの確保

外部委託先の情報セキュリティの調査，外部委託先の情報セキュリティ管理の実施，外部委託の終了　など

（4）情報セキュリティインシデントの管理

発見，初動処理，分析及び復旧，再発防止策の提案・実施，証拠の収集　など

（5）情報セキュリティの意識向上

情報セキュリティの教育・訓練，情報セキュリティに関するアドバイス，内部不正による情報漏えいの防止　など

（6）コンプライアンスの運用

順守指導，順守状況の評価と改善　など

（7）情報セキュリティマネジメントの継続的改善

問題点整理と分析，情報セキュリティ諸規程（情報セキュリティポリシーを含む組織内諸規程）の見直し　など

（8）情報セキュリティに関する動向・事例情報の収集と評価

基本情報技術者試験

1　プログラミング全般に関すること

実装するプログラムの要求仕様（入出力，処理，データ構造，アルゴリズムほか）の把握，使用するプログラム言語の仕様に基づくプログラムの実装，既存のプログラムの解読及び変更，処理の流れや変数の変化の想定，プログラムのテスト，処理の誤りの特定（デバッグ）及び修正方法の検討　など

注記　プログラム言語について，基本情報技術者試験では擬似言語を扱う。

2　プログラムの処理の基本要素に関すること
　型，変数，配列，代入，算術演算，比較演算，論理演算，選択処理，繰返し処理，手続・関数の呼出し　など
3　データ構造及びアルゴリズムに関すること
　再帰，スタック，キュー，木構造，グラフ，連結リスト，整列，文字列処理　など
4　プログラミングの諸分野への適用に関すること
　数理・データサイエンス・AI などの分野を題材としたプログラム　など
5　情報セキュリティの確保に関すること
　情報セキュリティ要求事項の提示（物理的管理策，技術的管理策及び組織的管理策），マルウェアからの保護，バックアップ，ログ取得及び監視，情報の転送における情報セキュリティの維持，脆弱性管理，利用者アクセスの管理，運用状況の点検　など

応用情報技術者試験

1　経営戦略に関すること
　マーケティング，経営分析，事業戦略・企業戦略，コーポレートファイナンス・事業価値評価，事業継続計画（BCP），会計・財務，リーダーシップ論　など
2　情報戦略に関すること
　ビジネスモデル，製品戦略，組織運営，アウトソーシング戦略，情報業界の動向，情報技術の動向，国際標準化の動向　など
3　戦略立案・コンサルティングの技法に関すること
　ロジカルシンキング，プレゼンテーション技法，バランススコアカード・SWOT 分析　など
4　システムアーキテクチャに関すること
　方式設計・機能分割，提案依頼書（RFP），要求分析，信頼性・性能，Web 技術（Web サービス・SOA を含む），仮想化技術，主要業種における業務知識，ソフトウェアパッケージ・オープンソースソフトウェアの適用，その他の新技術動向　など
5　サービスマネジメントに関すること
　サービスマネジメントシステム（構成管理，事業関係管理，サービスレベル管理，供給者管理，サービスの予算業務及び会計業務，容量・能力管理，変更管理，サービスの設計及び移行，リリース及び展開管理，インシデント管理，サービス要求管理，問題管理，サービス可用性管理，サービス継続管理，サービスの報告，継続的改善ほか），サービスの運用（システム運用管理，仮想環境の運用管理，運用オペレーション，サービスデスクほか）　など
6　プロジェクトマネジメントに関すること
　プロジェクト全体計画（プロジェクト計画及びプロジェクトマネジメント計画），スコープの管理，資源の管理，プロジェクトチームのマネジメント，スケジュールの管理，コストの管理，リスクへの対応，リスクの管理，品質管理の遂行，調達の運営管理，コミュニケーションのマネジメント，見積手法　など
7　ネットワークに関すること
　ネットワークアーキテクチャ，プロトコル，インターネット，イントラネット，VPN，通信トラフィック，有線・無線通信　など
8　データベースに関すること
　データモデル，正規化，DBMS，データベース言語（SQL），データベースシステムの運用・保守　など
9　組込みシステム開発に関すること
　リアルタイム OS・MPU アーキテクチャ，省電力・高信頼設計・メモリ管理，センサー・アクチュエーター，組込みシステムの設計，個別アプリケーション（携帯電話，自動車，家電ほか）　など
10　情報システム開発に関すること

外部設計，内部設計，テスト計画・テスト，標準化・部品化，開発環境，オブジェクト指向分析（UML），ソフトウェアライフサイクルプロセス（SLCP），個別アプリケーションシステム（ERP，SCM，CRM ほか）　など

１１　プログラミングに関すること
アルゴリズム，データ構造，プログラム作成技術（プログラム言語，マークアップ言語），Web プログラミング　など

１２　情報セキュリティに関すること
情報セキュリティポリシー，情報セキュリティマネジメント，リスク分析，データベースセキュリティ，ネットワークセキュリティ，アプリケーションセキュリティ，物理的セキュリティ，アクセス管理，暗号・認証，PKI，ファイアウォール，マルウェア対策（コンピュータウイルス，ボット，スパイウェアほか），不正アクセス対策，個人情報保護　など

１３　システム監査に関すること
IT ガバナンス及び IT 統制と監査，情報システムや組込みシステムの企画・開発・運用・保守・廃棄プロセスの監査，プロジェクト管理の監査，アジャイル開発の監査，外部サービス管理の監査，情報セキュリティ監査，個人情報保護監査，他の監査（会計監査，業務監査，内部統制監査ほか）との連携・調整，システム監査の計画・実施・報告・フォローアップ，システム監査関連法規，システム監査人の倫理　など

IT ストラテジスト試験

１　業種ごとの事業特性を反映し情報技術（IT）を活用した事業戦略の策定に関すること
経営戦略に基づく IT を活用した事業戦略の策定，IT によるビジネスモデルの開発提案，業務改革の企画，新製品・サービスの付加価値向上の提案，システムソリューションの選択，アウトソーシング戦略の策定　など

２　業種ごとの事業特性を反映した情報システム戦略と全体システム化計画の策定に関すること
業務モデルの定義，情報システム全体体系の定義，情報システムの開発課題の分析と優先順位付け，情報システム基盤構成方針や標準の策定，システムソリューション適用方針の策定（ERP パッケージの適用ほか），中長期情報システム化計画の策定，情報システム部門運営方針の策定，IT 全般統制整備方針の策定，事業継続計画（BCP）の策定・実施，システムリスクの分析，災害時対応計画の策定，情報システム化年度計画の策定　など

３　業種ごとの事業特性を反映した個別システム化構想・計画の策定に関すること
システム化構想の策定，業務のシステム課題の定義，業務システムの分析，業務モデルの作成，業務プロセスの設計，システム化機能の整理とシステム方式の策定，システム選定方針の策定（システムソリューションの適用ほか），全体開発スケジュールの作成，プロジェクト推進体制の策定，システム調達の提案依頼書（RFP）の準備，提案評価と供給者の選択，費用とシステム投資効果の予測　など

４　事業ごとの前提や制約を考慮した情報システム戦略の実行管理と評価に関すること
製品・サービス・業務・組織・情報システムの改革プログラム全体の進捗管理，情報システム基盤標準やシステムに関する品質管理標準の標準化推進，改革実行のリスク管理と対処，システムソリューションの適用推進，システム活用の促進，改革プログラムの効果・費用・リスクの分析・評価・改善，事業戦略・情報システム戦略・全体システム化計画・個別システム化計画の達成度評価　など

システムアーキテクト試験

１　契約・合意に関すること
提案依頼書（RFP）・提案書の準備，プロジェクト計画立案の支援　など

２　企画に関すること

対象業務の内容の確認，対象業務システムの分析，適用情報技術の調査，業務モデルの作成，システム化機能の整理とシステム方式の策定，サービスレベルと品質に対する基本方針の明確化，実現可能性の検討，システム選定方針の策定，コストとシステム投資効果の予測　など

3　要件定義に関すること

要件の識別と制約条件の定義，業務要件の定義，組織及び環境要件の具体化，機能要件の定義，非機能要件の定義，スケジュールに関する要件の定義　など

4　開発に関すること

システム要件定義，システム方式設計，ソフトウェア要件定義，ソフトウェア方式設計，ソフトウェア詳細設計，システム結合，システム適格性確認テスト，ソフトウェア導入，システム導入，ソフトウェア受入れ支援，システム受入れ支援　など

5　運用・保守に関すること

運用テスト，業務及びシステムの移行，システム運用の評価，業務運用の評価，投資効果及び業務効果の評価，保守にかかわる問題把握及び修正分析　など

6　関連知識

構成管理，品質保証，監査，関連法規，情報技術の動向　など

プロジェクトマネージャ試験

1　プロジェクトの立ち上げ・計画に関すること

プロジェクト，プロジェクトの目的と目標，組織の戦略と価値創出，プロジェクトマネジメント，マネジメントプロセスの修整，プロジェクトの環境，プロジェクトライフサイクル，プロジェクトの制約，個別システム化計画の作成と承認，プロジェクト憲章の作成，ステークホルダの特定，プロジェクトチームの編成，システム開発アプローチの選択，プロジェクト計画の作成，スコープの定義，要求事項と優先度，WBS の作成，活動の定義，資源の見積り，プロジェクト組織の定義，活動の順序付け，活動期間の見積り，スケジュールの作成，コストの見積り，予算の作成，リスクの特定，リスクの評価，品質の計画，調達の計画，コミュニケーションの計画，関連法規・標準　など

2　プロジェクトの実行・管理に関すること

プロジェクト作業の指揮とリーダーシップ，ステークホルダのマネジメント，プロジェクトチームの開発，リスク及び不確かさへの対応，品質保証の遂行，供給者の選定，情報の配布，プロジェクト作業の管理，変更の管理と変化への適応，スコープの管理，資源の管理，プロジェクトチームのマネジメント，スケジュールの管理，コストの管理，リスクの管理，品質管理の遂行，調達の運営管理，コミュニケーションのマネジメント，マネジメントプロセスの改善，機密・契約の管理，プロジェクトに関する内部統制　など

3　プロジェクトの終結に関すること

プロジェクトフェーズ又はプロジェクトの終結，プロジェクトの評価指標と評価手法，プロジェクトの完了基準，プロジェクトの計画と実績の差異分析，検収結果の評価，契約遵守状況評価，得た教訓の収集，プロジェクト完了報告の取りまとめ　など

ネットワークスペシャリスト試験

1　ネットワークシステムの企画・要件定義・設計・構築に関すること

ネットワークシステムの要求分析，論理設計，物理設計，信頼性設計，性能設計，セキュリティ設計，アドレス設計，運用設計，インプリメンテーション，テスト，移行，評価（性能，信頼性，品質，経済性ほか），改善提案　など

2　ネットワークシステムの運用・保守に関すること

ネットワーク監視，バックアップ，リカバリ，構成管理，セキュリティ管理　など

3　ネットワーク技術に関すること
　ネットワークシステムの構成技術，トラフィック制御に関する技術，待ち行列理論，セキュリティ技術，信頼性設計，符号化・データ伝送技術，ネットワーク仮想化技術，無線 LAN 技術　など
4　ネットワークサービス活用に関すること
　市場で実現している，又は実現しつつある各種ネットワークサービスの利用技術，評価技術及び現行システムからの移行技術　など
5　ネットワークアプリケーション技術に関すること
　電子メール，ファイル転送，Web 技術，コンテンツ配信，IoT/M2M　など
6　ネットワーク関連法規・標準に関すること
　ネットワーク関連法規，ネットワークに関する国内・国際標準及びその他規格　など

データベーススペシャリスト試験

1　データベースシステムの企画・要件定義・開発に関すること
　データベースシステムの計画，要件定義，概念データモデルの作成，コード設計，物理データベースの設計・構築，データ操作の設計，アクセス性能見積り，セキュリティ設計　など
2　データベースシステムの運用・保守に関すること
　データベースの運用・保守，データ資源管理，パフォーマンス管理，キャパシティ管理，再編成，再構成，バックアップ，リカバリ，データ移行，セキュリティ管理　など
3　データベース技術に関すること
　リポジトリ，関係モデル，関係代数，正規化，データベース管理システム，SQL，排他制御，データウェアハウス，その他の新技術動向　など

エンベデッドシステムスペシャリスト試験

午後Ⅰ試験では主に設計・開発分野を，午後Ⅱ試験では次の１～７の全ての分野を問う。

1　組込みシステム・IoT を利用したシステムの事業戦略・製品戦略・製品企画・開発・サポート及び保守計画の策定・推進に関すること
　事業戦略の策定，ビジネスモデルの策定，経営戦略との整合性評価，事業分析と課題抽出，IoT を含む関連技術（IoT・AI・ビッグデータ・メタバース・情報・通信・クラウド・エッジコンピューティング・アーキテクチャ・ヒューマンインタフェース・ストレージ・半導体・計測・制御・プラットフォーム・情報セキュリティなど）の技術動向分析，製品市場動向・社内技術評価及び他関連企業の動向を踏まえた製品戦略の策定，知的財産・規格・法令・製品の安全性や環境対策などへの考慮点の整理，リスク解析との整合性確認，調達方針の策定，要求の確認と調整　など
2　機能要件の分析・機能仕様の決定に関すること
　開発システムの機能要件の分析，品質要件の分析，他関連企業の有する技術能力の活用可能性検討，開発工程設計，コスト設計，性能設計，機能仕様のまとめ　など
3　対象とするシステムに応じた開発手法の決定・汎用モジュールの利用に関すること
　モデルベース設計，プロセスモデル設計，オブジェクト指向モデル設計，モジュール化設計，再利用　など
4　組込みシステムのシステムアーキテクチャ設計・要求仕様の策定に関すること
　ハードウェアとソフトウェアのトレードオフ，機能分割設計，システム構成要素への機能分割，装置間インタフェース仕様の決定，ソフトウェア要求仕様・ハードウェア要求仕様の作成又は把握，システムアーキテクチャ設計，進化型アーキテクチャ設計，広域無線通信網の活用，リアルタイム設計（リアルタイム OS の選定を含む），機能安全設計，高信頼性設計，

再利用容易化設計，保守性設計，環境安全設計，情報セキュリティ設計，全体性能の予測，省電力設計，テスト手法の検討，他関連企業との協業可能性の検討，開発環境の設計　など

5　組込みシステムのソフトウェア設計・実装に関すること

IoT を含む関連技術の適用可能性の吟味とプラットフォームの利用，リアルタイム OS の応用，デバイスドライバの設計，タスク設計，共有資源設計，ソフトウェアの実装及びそれらを行うプロセスとしてのソフトウェア要求仕様の吟味，ソフトウェア方式設計，ソフトウェア詳細設計，ソフトウェアコード作成とテスト，ソフトウェア結合テスト，システム確認テスト，構成管理，変更管理　など

6　組込みシステムのハードウェア設計・実装に関すること

IoT を含む関連技術の適用可能性の吟味とプラットフォームの利用，既存製品の再利用可能性の検討，ハードウェア要求仕様の分析，MPU・MCU・マルチコアプロセッサの選択，システム LSI の吟味，高位ハードウェア設計言語の活用，ハードウェアアーキテクチャの設計，メモリ階層の設計，周辺デバイスの検討（センサー，アクチュエーターほか），ハードウェア構成要素の性能評価，有線・無線の通信インタフェースの設計，高信頼化設計，故障解析，ヒューマンインタフェースの検討，システム確認テスト，EMC 評価，セキュリティ対策，不具合対策，開発及び試験環境の構築，電気・機械まわりの問題検討　など

7　保守に関すること

IoT を含む関連技術の適用可能性の吟味，ソフトウェア仕様書・ハードウェア設計書に基づく保守容易化設計，他関連企業の有する技術能力の活用可能性も含めた保守計画の作成，リモートメンテナンス・状態監視保守・定期保守などの保守形態の決定，保守作業の記録と構成管理　など

IT サービスマネージャ試験

1　サービスマネジメントに関すること

サービスマネジメント（サービスの要求事項，サービスマネジメントシステム，リスク管理ほか）　など

2　サービスマネジメントシステムの計画及び運用に関すること

サービスマネジメントシステムの計画，サービスマネジメントシステムの支援（文書化した情報，知識ほか），運用の計画及び管理，サービスポートフォリオ（サービスの提供，サービスの計画，サービスライフサイクルに関与する関係者の管理，サービスカタログ管理，資産管理，構成管理），関係及び合意（事業関係管理，サービスレベル管理，供給者管理），供給及び需要（サービスの予算業務及び会計業務，需要管理，容量・能力管理），サービスの設計・構築・移行（変更管理，サービスの設計及び移行，リリース及び展開管理），解決及び実現（インシデント管理，サービス要求管理，問題管理），サービス保証（サービス可用性管理，サービス継続管理，情報セキュリティ管理）　など

3　パフォーマンス評価及び改善に関すること

パフォーマンス評価（監視・測定・分析・評価，内部監査，マネジメントレビュー，サービスの報告），改善（不適合及び是正処置，継続的改善）　など

4　サービスの運用に関すること

システム運用管理（運用管理，障害管理，障害時運用方式ほか），運用オペレーション（システムの監視と操作，稼働状況管理，ジョブスケジューリング，バックアップほか），サービスデスク　など

5　ファシリティマネジメントに関すること

ハードウェア・ソフトウェアの基礎テクノロジ，システム保守管理，データセンター施設のファシリティマネジメント，設備管理　など

システム監査技術者試験

1　情報システム・組込みシステム・通信ネットワークに関すること
　経営一般，情報戦略，情報システム（アプリケーションシステム，ソフトウェアパッケージ，クラウドコンピューティング，モバイルコンピューティング，ビッグデータ，AI などを含む），組込みシステム（IoT を含む），通信ネットワーク（インターネット，有線及び無線 LAN など），ソフトウェアライフサイクルモデル，プロジェクトマネジメント，IT サービスマネジメント，インシデント管理，リスク管理，品質管理，情報セキュリティマネジメント及び情報セキュリティ関連技術（不正アクセス対策，サイバーセキュリティ対策，マルウェア対策などを含む），外部サービス管理，事業継続管理，デジタルトランスフォーメーション（DX）　など
2　システム監査の実践に関すること
　IT ガバナンスの監査，IT 統制の監査，IT マネジメントに関する推進・管理体制の監査，プロジェクト管理の監査，情報システムや組込みシステムの企画・開発・運用・保守・廃棄プロセスの監査，アジャイル開発の監査，外部サービス管理の監査，事業継続管理の監査，人的資源管理の監査，ワークエンゲージメントの監査，情報セキュリティ監査，個人情報保護監査，他の監査（会計監査，業務監査，内部統制監査ほか）との連携・調整　など
3　システム監査人の行為規範に関すること
　監査体制（監査に対するニーズの把握，監査品質の確保を含む），監査人の倫理，監査の独立性と客観性の保持，監査の能力及び正当な注意と秘密の保持，監査計画の策定（リスクアプローチを含む），監査の実施，監査の報告，フォローアップ，CAAT（データ分析ツール，電子調書システムなど。AI を用いた監査を含む），デジタルフォレンジックス，CSA（統制自己評価）　など
4　システム監査関連法規に関すること
　情報セキュリティ関連法規（刑法，不正アクセス禁止法，プロバイダ責任制限法など），個人情報保護関連法規，知的財産権関連法規，労働関連法規，法定監査関連法規（会社法，金融商品取引法など），システム監査及び情報セキュリティ監査に関する基準・ガイドライン・施策，内部監査及び内部統制に関する基準・ガイドライン・施策　など

情報処理安全確保支援士試験

1　情報セキュリティマネジメントの推進又は支援に関すること
　情報セキュリティ方針の策定，情報セキュリティリスクアセスメント（リスクの特定・分析・評価ほか），情報セキュリティリスク対応（リスク対応計画の策定ほか），情報セキュリティ諸規程（事業継続計画に関する規程を含む組織内諸規程）の策定，情報セキュリティ監査，情報セキュリティに関する動向・事例の収集と分析，関係者とのコミュニケーションなど
2　情報システムの企画・設計・開発・運用におけるセキュリティ確保の推進又は支援に関すること
　企画・要件定義（セキュリティの観点），製品・サービスのセキュアな導入，アーキテクチャの設計（セキュリティの観点），セキュリティ機能の設計・実装，セキュアプログラミング，セキュリティテスト（ファジング，脆弱性診断，ペネトレーションテストほか），運用・保守（セキュリティの観点），開発環境のセキュリティ確保　など
3　情報及び情報システムの利用におけるセキュリティ対策の適用の推進又は支援に関すること
　暗号利用及び鍵管理，マルウェア対策，バックアップ，セキュリティ監視並びにログの取得及び分析，ネットワーク及び機器（利用者エンドポイント機器ほか）のセキュリティ管理，脆弱性への対応，物理的セキュリティ管理（入退管理ほか），アカウント管理及びアクセス管理，人的管理（情報セキュリティの教育・訓練，内部不正の防止ほか），サプライチェーンの情報セキュリティの推進，コンプライアンス管理（個人情報保護法，不正競争防止法などの

法令，契約ほかの遵守）　など

4　情報セキュリティインシデント管理の推進又は支援に関すること

情報セキュリティインシデントの管理体制の構築，情報セキュリティ事象の評価（検知・連絡受付，初動対応，事象をインシデントとするかの判断，対応の優先順位の判断ほか），情報セキュリティインシデントへの対応（原因の特定，復旧，報告・情報発信，再発の防止ほか），証拠の収集及び分析（デジタルフォレンジックスほか）　など

(3) 試験で使用する情報技術に関する用語・プログラム言語など

試験問題で使用する情報技術に関する用語やプログラム言語の仕様などは，次の URL に示すとおりとする。

https://www.ipa.go.jp/shiken/syllabus/gaiyou.html

参考　シラバス（知識・技能の細目）について

各試験区分の出題範囲を詳細化し，それぞれに求められる知識の幅と深さを体系的に整理・明確化した「シラバス」（知識・技能の細目。各項目の学習目標，内容，用語例等から構成）を公開しているので，学習又は教育の指針として活用されたい。

https://www.ipa.go.jp/shiken/syllabus/gaiyou.html

別紙　応用情報技術者試験　午後試験の分野別出題数

◎応用情報技術者試験　（11 問出題 5 問解答）

分　野	問 1	問 2～11
経営戦略	－	○
情報戦略	－	
戦略立案・コンサルティング技法	－	
システムアーキテクチャ	－	○
ネットワーク	－	○
データベース	－	○
組込みシステム開発	－	○
情報システム開発	－	○
プログラミング（アルゴリズム）	－	○
情報セキュリティ	◎	－
プロジェクトマネジメント	－	○
サービスマネジメント	－	○
システム監査	－	○
出題数	1	10
解答数	1	4

◎：必須解答問題　○：選択解答問題

Ver.5.3　2023年12月

■情報処理技術者試験・情報処理安全確保支援士試験　試験要綱■

独立行政法人情報処理推進機構
Information-technology Promotion Agency, Japan

〒113-8663　東京都文京区本駒込2-28-8
文京グリーンコートセンターオフィス15階
TEL 03-5978-7600（代表）

詳しくは・・・
https://www.ipa.go.jp/shiken/